愛知労働問題研究会

会報　第 23 号　2022 年 4 月 7 日

編集・発行：愛知労働問題研究会・運営委員会

連絡先：〒456-0006 愛知県名古屋市熱田区沢下町 9-7 労働会館東館３階　愛労連内
ＨＰ：http://www.roren.net/romonken/　　Email:aichiromonken@gmail.com
Facebook: https://www.facebook.com/aichiromonken/
または、https://m.facebook.com/aichiromonken/

①「会報」の最新号以外は、上記の HP に掲載されています。
②メーリングリストやフェイスブックなどは、会員外にも情報が知られる可能性のあることを前提として活用しましょう。
③協力金や寄付金などの振り込みは下記の口座（名義：愛知労働問題研究会）まで
ゆうちょ銀行：店名二〇八（ニゼロハチ）、店番 208、普通預金、番号 2408778
ゆうちょ銀行の口座間：記号 12080、番号 24087781

【目次】

第 23 回定例研究会……1
Ⅰ　報告：愛知の公立高校再編の方向、私たちの対抗軸
加藤聡也さん（愛知県高等学校教職員組合執行委員長）……2
Ⅱ　コメント：中村茂喜さん（愛知県教職員労働組合協議会幹事、中学校教員）……13
Ⅲ　質疑応答など……16
報告資料……31
コメント資料……46
運営委員会からのお知らせ……52

第 23 回定例研究会

＊2022 年 3 月 12 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分頃、Zoom によるオンライン研究会
参加者 7 名（個人会員 4 名、非会員 3 名）、＜文責在編集担当者＞

司会（櫻井副代表）
ただいまから、第 23 回定例研究会を始めます。まず、本会の代表である浅生の方から挨拶をお願いします。
浅生さん

皆さん、第 23 回定例研究会にご参加いただきまして有難うございます。今日は、愛知県高等学校教職員組合（愛高教）の加藤さんからの報告と、愛知県教職員労働組合協議会（愛教労）の中村さんからのコメントです。司会は当研究会副代表の櫻井さんに務めてもらいますので、よろしくお願いします。なお、愛知労働問題研究会は 4 年位前に発足し、この間、原則 2 か月に 1 回、23 回の研究会を積み重ねてきましたけれども、年内を持ちまして研究会としては終了解散ということを 1 月の会合および会員のメーリングリストで確認しています。定例研究会の開催数は多くありませんが、参加者の皆さんで有意義な議論がなされることを望んでいます。司会の櫻井さん、よろしくお願いします。

司会

それでは本題に入っていきます。メインの報告を愛高教の委員長をやってみえる加藤さんからしていただきます。テーマは、今、焦眉の課題である「愛知の公立高校再編の方向と、私たちの対抗軸」です。当事者はそれなりに知っていますが、当事者以外の方には意外と知られていないものですから、全然知らない人も理解できるということを踏まえたお話をしていただければと思います。オンラインですので、報告者、コメント毎に休憩を取っていきたいと思いますので、その点ご承知おきください。では、加藤さん、よろしくお願いします。

Ⅰ　報告：愛知の公立高校再編の方向、私たちの対抗軸
加藤聡也さん（愛知県高等学校教職員組合執行委員長）

皆さんこんにちは、加藤聡也と申します。よろしくお願いします。今、冒頭のご挨拶で、本研究会が、もうすぐ解散ということを聞いて、ちょっと驚いています。そういうこととは承知していなかったものですから、別の意味で責任が重大だなと思いました。3 か月くらい前に、司会の桜井さんから定例研究会で報告していただけないかという話がありまして、ちょうど、県立高校の統廃合の問題が浮上していたものですから、よくまとめてみなければいけないなと思って、この 1 月、2 月原稿をまとめてきました。1 時間もかからないと思いますけれども、話をしていきます。

最初に、自己紹介をします。私は 1963 年名古屋市生まれで、1988 年 4 月に尾張旭にある旭野高等学校というところで理科の物理の教員として赴任しました。25 歳になる年です。まとめてみて改めて思ったのですけれども、旭野高校、東海商業高校、今の豊明高等学校と 3 つ赴任していますが、いずれも、1971 年ないし 72 年に創立された、我々の言葉でいうところの、既設校に対する新設校という範疇の学校です。これはご存じかも知れませんが、東郷高校が 1969 年に開校して、それ以降の学校を新設校というのです。旧制中学の流れを汲む、一宮や岡崎や旭丘や時習館などの学校とは違って、管理主義教育を特徴とする学校が 1969 年以降次々とできました。そういう中で闘いや取り組みがあったわけですが、偶然、私は 3 つしか学校を経験していませんけれども、いずれも新設校という学校の中で教育活動をやってきました。

旭野高校には 8 年間、25 歳から 32 歳までいて、そこで学級担任をしたり、愛高教執行委員（尾東支部）を 2 年間やったりしました。30 歳で、ちょうど高橋信さんが執行委員長をされている頃です。8 年間と、あまり長くはないのですが、当時の教師としての歩みは稚拙でしたが、そういうことでした。

1996 年 4 月に東海市にある東海商業高等学校に赴任しました。その学校は、間もなく東海樟風高校と名前を変えて、学校の有り様も随分変わっていくのではないかという、そう

いう学校でしたが、そこに 33 歳から 10 年間おりました。そこで、1996/4～1998/3 は 2 年と 3 年の担任をし、1999/4～2004/3 は生徒会主任をやり、2004/4～2006/3 は総務主任を 2 年間やりました。今、私は愛高教執行委員長という役をやっていますが、組合活動、特に分会活動、職場活動のイロハ、それらの大切さを学ばせていただいた 10 年間でした。ちょうど年が 32 歳から 42 歳という年齢でした。幸いにも尊敬できる組合の先輩が 4 人、5 人、6 人といて、我々若手の組合員も一定数いて、10 数人で分会活動をずっとやってきたのですけれども、その経験が今になって生きているなと本当に機会あるごとに思います。今日、もし時間があれば、そんな話も出来たらと思っています。

そして、2006 年 4 月に豊明市にある豊明高等学校に移って、今に至っております。赴任したときは 42 歳で、今は 58 歳ですから、ずいぶん長くなりました。その間 2007, 2008, 2009, 2011, 2012 の 5 回、学級担任をしました。それから、2013/4～2019/3 は、学年主任（2 巡）をやりました。ハテと思うかもしれませんが、豊明高校は 1971 年に創設されて、先ほど申し上げた新設校の代表的な学校です。1970 年代、80 年代にかけて新設校の代表高校として、東郷高校・天白高校・豊明高校が３Ｔと呼ばれていました。だから、私も 2006 年に赴任したときに、とても構えていきました。2006 年頃はそういう雰囲気というか、いかにも新設校ということで、皆よく働く、馬車馬のように働くそういう雰囲気の学校でした。

しかし、いろいろなことで変わってきて、当時、豊明分会も 10 人ちょっとメンバーがいて、私の前に執行委員長を務めた鈴村紀代子さんも同僚でした。そういう中で、分会は分会で対峙し、私は私で学級担任等をやりながら、いろいろな人と交わりながら、教師としてやってきました。当時の管理職とそう折り合いが悪くなかったこともあって、当時の教頭から 2013 年の 3 月、ちょうど今くらいの時期に学年主任をやってくれと言われまして、思いがけなく、2 周りも学年主任をすることになりました。時間があれば、そういう話もしたいと思いますが、その後、2019/4 から愛高教副委員長、委員長をやることになりました。

愛高教の委員長は専従役員ということで、職場を休職して専従でやるというのが慣例でした。私も、2020 年の 4 月から 1 年間休職していましたけれども、いろいろな事情があり、今現在は職場に戻っています。職場で 1 年間は 1 年生の副担任、理科の教師をやりつつ、愛高教の執行委員長もやってまいりました。今年 4 月からも 1 年間、同じような形で務めることになっています。こんなところが自己紹介です。

それから、私ども愛高教は、愛知県立高等学校と障害児学校の教職員を組織しています。1970 年代には 2 度のストライキ闘争も闘いました。80 年代からは、憲法にもとづく教育の推進、平和や民主主義の擁護、貧困や格差の拡大から子どもと教育を守るとりくみ、教職員の賃金・労働条件の改善や、国民生活の改善などのとりくみをすすめています。また、教育研究活動、教育条件整備の運動、学校づくりなどのとりくみを行っています。1991 年の全教（全日本教職員組合）結成に参画して活動しております。残念ながら職場の教職員の大多数を組織するということにはなっておらず、先ほど申し上げましたように東海商業でも職場そのものは 60 人ほどの規模ですが、組合員は 10 数人です。今の豊明高校でも 50 人、60 人の規模の職場ですけれども、組合員は 5 人です。そういった状況ですが、活動はしているということです。

それでは、本題に入ります。大きく 6 つの章に分けてこのレジュメ（報告要旨・資料）をつくりました。まず、現在、起こっていることを概括的にお話します。それから、4 頁からは愛知の県立高校の歴史を概観します。5 頁からは第 3 章として、この間の県教委の政策の変遷をみまして、8 頁からは特に高校統廃合、県は再編と言っていますけれども、分かり

やすく言えば高校を減らしていくという、高校統廃合をされる地域はどのあたりかという問題を振り返ります。そして最後、9 頁あたりから、私たちが目指す高校教育とはということになります。実は、11 頁あたりからになりますが、高校入試が 2023 年 3 月から大きく変わるのですね。そのことは、愛教労の中村さん、当然よくご存じだと思いますが、私からもちょっと触れさせていただきたいなと思っています。最後に、13 頁から略年表（愛知県立高校　「多様化」の進行）をつけておきましたのでご覧ください。そういう流れで考えております。

１．現在起こっていること

第 1 章の現在起こっていることですが、2021 年末の 12 月 22 日、愛知県教育委員会は「県立高等学校再編将来構想～中学校卒業者数の急減を見据えた県立高等学校の一層の魅力化・特色化と再編～」（以下「構想」）を決定しました。プリントアウトしたものは手元にありますが、興味のある方は愛知県教育委員会の HP からダウンロードできます。ここには「案」と書いてあって、11 月は案でしたが、12 月 22 日には決定として「構想」が発表されたのですね。そこには、全日制の進学率の低下や欠員が急増していること、中学校卒業者数は 2035 年度には約 13,000 人も減少するので、愛知県教育委員会としては策を講じなければならないということで、新たなタイプの学校を用意するなど、中学生が学びたいと思う学校づくりを進めるぞということで、ほぼ 10 年後の 35 年度まで「具体化検討委員会」を継続設置し「具体的な取組を順次公表」すると、こう書いてあるわけですね。

この「具体化検討委員会」なるものの存在は、我々愛高教もなかなか分からなかったです。小さくなったとはいえ、愛高教は県立学校を代表する教職員組合だと自負しておりますので、高校入試に関する入選協という「愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議」ですね、高校入試に関する協議会議に私も参加させてもらっているのですが、この再編構想の下相談には参加できませんでした。一部の校長や県教委幹部若干名でこしらえたらしいのですが、それが先ほど公表された「構想」を密室中で決定したということです。我々は、そのこと自体を批判していますが、それは、今回お話しする 3 つの高校をつぶすということに留まらず、彼らがいうところの 13,000 人の中学生が減るのであれば、彼らの試算によれば 200 学級減らさなければならないということですから、3 校どころではなくて 10 校、20 校つぶされるという危険性があるということです。それが 1 点目。

（１）尾西西部の統廃合

さて、今回打ち出された大きな統廃合は、尾張西部地域（稲沢市、一部一宮市、一部津島市、弥富市）に関わる学校を統廃合する計画です。

（ア）稲沢・一宮地区

稲沢・一宮地区については、2023 年度に稲沢・稲沢東・尾西の３校を統合した「新校」を、今の稲沢高校のある稲沢校地に開校するということなので、稲沢東、尾西は 2023 年度より募集停止、つまり、ついこの間終わった高校入試が最後ということになります。現行の稲沢高校は農業科（４学級）ですが、この稲沢高校は普通科（３学級）になっている、尾西高校も普通科です。新しい学校は農業科と普通科を併設した総合選択制（互いの学科の科目が一部履修可能）を実施するということですね。歴史を紐解くと、実は稲沢高校というのはずいぶん昔から伝統のある学校でして、それを 1960 年代に子どもが増えてきたということで分離独立したのが稲沢東高校です。地元では、かつての稲沢高校のイメージに戻るのだという受け止めもあるようですが、我々としては、そういうことは許せないということです。尾西高校と稲沢東高校の下向きの矢印は無くなるということです。

（イ）津島・弥富地区

次に津島・弥富地区です。津島北と海翔を統合し、2025 年度に 2 校を統合した「新校」を津島北校地に開校するということで、2025 年というのを強調していますけれども、海翔（普通科）は 2023 年度より募集停止、福祉科は 2024 年度までは海翔で募集、25 年度から津島北で福祉科の募集を開始、それと同時に海翔・福祉科の生徒は津島北へ移すということです。海翔高校には普通科と福祉科がありますが、この福祉科がユニークな学科、かつてはなかった学科で、今後もニーズが高まっていくであろうことから、この福祉科を無くしていいのかという議論があります。普通科はこの間の入試でお仕舞にして来年度より募集停止し、新しい学校で普通科（２学級）、商業科（３学級）、福祉科（１学級）、つまり、津島北の学校に新たに福祉科をつくるということになります。

私は、福祉科の内容について詳しくはないのですが、介護の内容も含まれると思われます。そういうことで介護実習もできるような施設をつくりたいということです。今の津島北高校にはそういう施設設備がないので、当然これから整備していかなければならないということになりますので、県の言うようにすぐということにはならないと思います。ですから、2025 年度からということになります。そうすると、ついこの間も海翔高校の入試があり、当然、生徒は入ってきます。来年も福祉科は募集するのですね。そうしますと、2023 年度に海翔高校の福祉科に入学した生徒は、23，24 年度に海翔高校の校舎で福祉を勉強するけれども、25 年度は通う学校が津島北に移るという、そういうプランなのですね。資料２頁の地図は分かりにくいのですが、海翔高校はこの辺（下の地図）で、津島北高校は津島市の中でもかなり北になりますね。13，4 キロ離れています。こういう状況で 2 年生から 3 年生になるときに通えるのかしらと思いますけれども、この「構想」の下、受験生は 2023、24 年度に海翔・福祉科を志望できるでしょうか。入学しても 2(1)年後に 13 ㎞北の津島北に通学先を変えねばなりません。そんな計画が進行しています。これが、津島・弥富地区の計画です。

先ほどお話ししましたけれども、伝統ある 2 校（元稲沢農学校、元津島高等女学校ですが、これが津島北高校になります）を残しました。実学志向で地域の福祉科を残したとも言えます。以前、十四山中学校の生徒同士で命を奪うという不幸な事件がありましたね。その中学校の隣に立っている高校ですが、この海翔高校を無くしていいのかという問題です。実は不勉強で知らなかったのですが、三重県の木曽岬町は、この辺（下の地図）にあります。例外的にこのあたりの子も海翔高校に通うことが出来るということで、沢山ではありませんが、数名この辺から通っている子もいるということで、無くしていいのかということです。

もっと言うと、海翔高校は歴史が浅いのですよ。かつてここに蟹江高校と海南高校があり、統廃合によって 2005 年に海南が海翔に名前が変わって設立されました。そういう経過があります。まだ、17 年位しか経過していないのですが、さらに最近、県は予算をつけて校舎を改築したり、福祉科のために設備を拡充したりしているのですよ。今、海翔高校は困難校と言われ、確かに問題を抱えた生徒がいるのは事実ですが、教職員は頑張って 1 人でも多くの生徒を卒業させてと、頑張ってきたのに、この学校をつぶすということなのですね。

さて、今言った３つの学校が無くなるというのも重大な問題ですけれども、この「構想」にはもっといろいろなことが書いてあります。

（２）新しいタイプの高校の設置

新しいタイプの高校を設置するということです。資料３頁に地図がありますけれども、

こっちは御津高校、こっちは犬山南高校ですね。この 2 校を改編するとしています。
（ア）犬山南
　１つは犬山南高校です。これを『ＤＸ人材育成』と『起業家的人材育成』を柱とした、生徒の新たなチャレンジを全面的に支える学校と言っているのです。しかし、結局、どう変わるのか分からないのです。DX は、最近よく言われるデジタルトランスフォーメーションのことですが、これ自体もよく分からないのですが、言わば、デジタル化に対応した人材育成ということでしょうか。起業家的人材育成、新たなチャレンジを支えるということで、HP を見てみました。今の犬山南の校長は、数年前まで愛知県教育委員会にいて我々の交渉相手だった人物ですが、その校長のメッセージをちょっと読み上げてみると、「大学や企業、あるいは地域の変化を見据えて本校の在り方を大きく変えます。令和５年度の入学生からですが、来年度から少しずつ変えていくことが出てきます。さらに、みなさんが卒業後、後輩を指導するために学校に来てもらったり、あるいは大学や職場に生徒を派遣し、指導してもらったりすることもあり得ます」。これだけでしたら、何をどう変えるのか分からないのですけれども、校長も暗中模索というか、そういう事ではないのかなと思います。
　組合のルートで聞こえてくることは、若手にチームをつくらせて考えるといって号令をかけているみたいですけれども、若手も困惑していると組合の会議では報告を受けています。ちょっとヒントになるのは、今、犬山南高校は e-sports を部活動で熱心にやっているのですね。県予算をみても、e-sports がうんたらかんたらと書いてあるので、それを１つのキーワードとしてやろうとしていることが見えないわけではないのですけれども、犬山南高校に行けば e-sports が出来るということが学校の魅力かというと疑問で、これはちょっと皆さんの意見を伺いたいところです。一方で、ご存じかも知れませんが、犬山南高校も教育困難校の立ち位置の学校です。そうした中で、基礎・基本の定着や学び直しを支援する、新たな学校の運営を支える民間企業、地元自治体との連携・外部委託を進める、とあるのですが、この民間企業との連携を進める云々かんぬんというのも今の教育改革の 1 つの流れですよね。安上がりに、県としては民間活力の導入と言って金はかけないが、民間に口を出させるというやり方ですね。本当に公教育の有り様として必要なのか、ということが問われていると思います。
（イ）御津
　次は御津高校です。旧御津町にある高校です。実はここはすでに国際教養科があるのですが、必ずしもあまり生徒が集まっていません。そこを外国にルーツのある生徒や特別な支援が必要な生徒などを受け入れるインクルーシブな学校として生まれ変わらせるということですね。日本語習得や不登校の状況に応じた少人数教育を行うということ、桜井さんは詳しいと思いますが、定時制高校に多くの外国人生徒、日本語が出来ない生徒、あとは不登校の生徒を入れて、県として新たな御津高校、名前はどうなるか分かりませんが、そうした高校をつくろうということです。
　それから、普通皆さんがイメージする全日制課程学年制から全日制単位制への改編で、これは初めて守山高校と幸田高校で移行するのですが、見えてきていません。単位制というと大学みたいなイメージですが、好きな時間に学校に行って好きな時間に帰ってくるというイメージを持たれると思うのですが、僕らもそういうイメージでいたのですが、他県でも単位制は進んでいますけれども、あまりそうはなっていません。高校生には高校生のリズム、躾が必要だろうということで、単位制と言っても、「9 時に来いよ」とか「４時までは学校だよ」とか、あまりそう大きくは変わらないのだろうけれども、もう、建前とし

ては全日制単位制高校にすること、あるいは、昼間定時制課程の併置ということも、これも全貌が見えてきていませんが、変えていきたいということになっています。

日本語の困難な生徒や不登校の生徒を受け入れるということで、私の分析では、この2校の計画にみられる意図は、高校生を選別し「優秀な層」とそうではない層に分け、予算の配分にも差をつけていく「新自由主義」的発想です。

（３）実践的な商業教育へのリニューアル

次に商業高校です。これも結構大きな問題です。商業高校は沢山あります。実は、私も調べてみて驚いたのですが、今や、商業高校生が一番多いのは愛知県なのです。大阪府なんか本当に減ってしまっています。愛知県は、この沢山ある商業高校を分類するというのですが、僕に言わせれば、差別化してランク分けするということです。愛知商、岡崎商、豊橋商の 3 校を「グローバルビジネス科」「会計ビジネス科」などに再編します。この 3 校は「高度な専門性を身に付ける学校」として中核校と位置付けられました。事実上のトップ 3 校です。中位に 6 校（一宮商、半田商、春日井商、古知野、津島北、東海樟風※東海商を校名変更）を配置します。最下層に中川商「キャリアビジネス科」ということで並べて、安心して就職できる生徒を育てるというのですね。これは本県初の職業学科全日制単位制の新設です。上記の犬山南・御津の改編と共通する発想です。

こんな風に御上が公立高校を格付けすることは愛知県の歴史上初めてですね。それは「まあ、旭丘が旧愛知 1 中でトップだわな」と、常識というか、イメージ的に持っているかもしれませんが、県の中心的文書で旭丘が愛知県の中心的な学校だとは書いていません。けれども、この高校再編計画は初めて格を付けるということをやったのですね。そういう意味では極めて重大なことだと思います。いろいろなことを書いていますが、愛知商、岡崎商、豊橋商の 3 校が高度な学習を出来るのか、やるのかと。実は、1 週間くらい商業の先生にも入ってもらって、いろいろな検討会をやってきて、大学でやるようなことをやらせたいと思っているようですが、現実的には難しいと思いますね。こういう風に、今、商業高校も混迷している状況です。

最後に、今、10 校の商業科の高校の名前が上がっているのですが、名前の上がっていない学校もあります。この辺の学校にも、1 クラス、2 クラスの商業科があるのですよ。「構想」で触れられていない商業科（木曽川、犬山、碧南、国府、成章）の今後も心配されます。触れられていないということは、変えていくぞという対象にもなっていないということですね。私は、このあたりの学校が今後も簡単に募集停止になってしまうのではないかと、そういう危惧も持っています。

２．愛知の公立高校の歴史を概観

これは愛知県に育っている方は常識かも知れませんが、説明していきたいと思います。

（１）新制高校の時代

1949 年度から当時は小学区制の新制高校がスタートしました。私の父なんかもこういった経験をしているようです。ですから、88 歳より上の方はこういった時代でしょうね。現在 87 歳よりも若い方でしょうか、ほとんどの方はこれ以降ですね。

（２）公立優位？の時代

愛知県では公立優位の時代が長く続いたのですね。旭丘や明和、岡崎、時習館の時代が長く続いたのですね。1956 年度から小学区制を廃止し、入学者選抜が行われることとなりました。受験戦争は徐々に激化していきます。愛知独特の風土により、「公立優位」と言われる体制が確立されていきます。現在 50 歳～80 歳あたりの方の高校時代です。ここは大

阪や東京、神奈川とはちょっと違うところです。1973 年度から「学校群制度」（～1988 年度）でしたが、公立優位の時代は、1960 年代から私が教員になった 80 年代後半の 89 年くらいまでではないでしょうか。というのは、この後申し上げる複合選抜制度が 89 年に登場して、少しずつ変わってきているのですね。

（３）「困難校」の出現

学校群を廃止し 1989 年度 3 月の入試から始まった複合選抜制度（2 校希望・複数受験・大学区制）にともない、トップ公立、その周囲に私立、そして若干の公立校、さらに困難校というように様相が変化しました。学校間格差は徐々に、語弊がありますが、序列化・固定化され、各校の類型化が進行します。教育「困難校」と呼ばれる公立高校が、周辺地域に出現したのも 1990 年ごろからです。改めて振り返ってみますと、複合選抜が 89 年から始まっていますから、我々の教員の多くがこの複合選抜世代なのですね。現在 48 歳以下が「複合選抜世代」です。これは結構無視できなくて、今日、ここにお集まりの皆さんは複合選抜制度反対を闘われた方がたくさんお見えだと思います。私自身も複合選抜を教師としては知っていますが、生徒としては知らないのです。今や、高校教師でも「複合選抜は常識だ」みたいな所がありまして、難しいところです。

（４）高校「多様化」の時代

次に、1999 年、岩倉高校商業科に県内初の総合学科を設置したことを皮切りに、これ以降、総合学科がどんどん増えてきます。これが 2000 年の初めの頃にかけてですね。あと、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）が旭丘、岡崎、時習館という学校でつくられます。一方で、昼間定時制、コース制などの多様化路線が進行します。これが現在 20 代、30 代の方の高校時代となります。

（５）新高校入試制度の時代

現在の中学 2 年生から「新入試」がスタートします。公立高校のあり方も、変化していくと予想されます。詳しくは６章で述べます。

３．この間の県教委の政策をどう見るか

第 3 章に入っていきますが、ここは簡単に行きます。県の言い分ですからね。

（１）県教委の「構想」が示す 5 つのポイントに即して

ポイント 1:中学生が学びたいと思える学校づくり。ということですが、先ほどの e-sports が学べる学校が中学生の学びたいと思える学校なのでしょうか。工業高校を工科高校と名前を変えたけれども、それが魅力なのかですね。結局、専門学校的なことをどんどんやって、実利的なことをやって行くだけではないのか。

ポイント２：生徒が主体的に学べる学校づくり。この主体的というのは生徒会づくりや自主活動のことではなくて、広域通信制高校みたいに、少なくないフィギュアスケート選手が学ぶ「角川 N 高校」などを指しています。N 高校の評価は別の機会に譲りたいですが、かなりの生徒を集めて、学校の時間に縛られないというような学校を民間が流行らせているから、県としても取り入れようみたいな、これまでとは異なる学びのスタイルを求める生徒が増えているのだから考えなさいということです。しかし、一部の広域制通信高校でも教育の質が問題になりましたよね。三重県でも。これは多くの論点がありそうです。

ポイント３：時代の変化に対応した、新しいタイプの学校づくり。新しいタイプというものがどういうものになるのか、これは批判的に見ていかなければならないと思います。

ポイント 4：地域の期待に応える学校づくり。これは僻地校なんかでは、特に僻地の学校を守るという観点では、必要なことだと思います。では、どういった内容が地域の期待な

のかということは慎重な議論が必要だろうと思います。
　ポイント５：外部の専門機関と連携した、持続可能な教育体制を構築。「民間の活力を導入するなど、常に社会の変化に対応できる体制を構築」「大学や企業、ＮＰＯなど、外部の専門機関と連携した取組を積極的に進め、常にアップデート」と言われている内容が、実際はどういう方向に行くのかということは慎重に見ていかなければいけないと思います。特にこの ICT 教育です。今、県立高校も１人１台のパソコンが入りつつありますが、これは、ハードは整備されつつあるけれども、ではそれで生徒に何をやらせるのかということです。安易にドリルみたいなものがバンバン入って来て、そういう教育内容になっていったのではいけないなと、私は思っています。
（２）計画進学率 93.0％を、「進学見込率」と名を変え 91.5％に
　さて話は変わりまして計画進学率の問題です。愛教労さんのコメント資料を見て、意を同じくしたのですが、実は、これはあまり報道されていないのです。ついこの間、計画進学率が 93.0％だったものが、91.5％に下げられてしまったのです。その下でこの間、入試が行われました。もしかしたらその結果、欠員は減るかも知れません。もう最初の段階から門戸を狭めているのですから。これも愛高教に何の相談もなく、一方的に進学見込率を下げてきたのですね。もともと低い愛知の全日制高校への進学率がさらに下がりました。でも、統計を丁寧に見ると、中学３年生に取っている進路希望調査を見ると、大体これくらいの数字の中３生が９月時点では全日制高校に進学したいと言っているのですよ。大体、93.9％→93.7％→93.6％→93.2％→92.8％→92.6％です。結果的には、この間、全日制への進学率は 90％を下回る数字にはなっていますが、それは先ほど言ったような広域通信制に行ったり、多岐に渡っていたりする可能性もありますが、僕は中学校の進路指導が全日制を諦めさせているのではないかと心配をもっています。是非ここは論議したいなと思っています。
（３）「特色ある」学校づくりの実際
　さて資料６頁の（３）ですが、これは分析です。実は、今日、研究会が労働会館で開催できれば、持参できたのですが、つい最近こういう冊子を完成させました。2 年ぐらいかけて、20 人くらいが集まって、現在の愛知の高校について分析した「提言　愛知の高校はどこに向かうのか　県立高校の『魅力化・特色化』を検証するー私たちの求める多様化とはー」（2022 年１月）という冊子です。これを使ってもお話したかったのですが、今日は皆さんのお手元にないので、かいつまんでお話したいと思います。
（ア）スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業
　県立は 8 校やっています。明和・旭丘・一宮・時習館・岡崎・刈谷・豊田西・半田ですね。事情を知っている方は、学力の高い生徒の集まる学校ということが分かると思います。これに市立向陽、名城大附高の 2 校を加えて合計 10 校ですが、これは国の指定を受けてスーパーサイエンスハイスクールということで、かなりのお金をもらってエリート教育を行っています。それが１つですね。
（イ）「国際理解教育」
　次に国際理解教育ですね。長年、日本人は英語が出来ん、出来んと言われて、県は相当お金をかけて英検 2 級や準 2 級を取らせろとか言ってきています。2003 年から発破をかけてきていますが、準 2 級は 3％、2 級は高卒程度ということらしいですが、準 2 級でも 3％に過ぎないということです。留学は、そこそこの数字が出ていますが、こうしたことを一部の学校で推進、取り組んでいますけれども、なかなか英語というのは厳しいですね。
（ウ）「僻地校」（特に、奥三河地域）

それから僻地校の問題も大きいです。特に奥三河地域の学校は随分減ってしまいました。2007 年度末までは、田口稲武校舎、新城東本郷校舎がありましたが、閉校になりました。2010 年度末で、鳳来寺が閉校、作手の校舎、2020 年度末に新城東と新城が閉校し、新たに新城有教館になり、この地域にあった６校１校舎は、20 年を経て、今、あのあたりにある学校は、２校１校舎のみとなりました。足助も、2021 年度より１クラス減２クラス募集となったものの、それでも大幅な欠員があります。田口は 2004 年度より郡内３中学と、県内初となる連携型中高一貫教育を開始、作手校舎も作手中と 2010 年度より中高一貫教育を開始、しかし入学生徒数増に結びついていません。「構想」では、山間部１校１校舎（田口、作手校舎）、中山間部 2 校（足助、加茂丘）、半島部 2 校（内海、福江）の名を挙げて学校の必要性については言及しています。さすがに県も交渉では、この地域の高校のあり方自体を認め、整備することこそが早急に求められます。

(エ)普通科コース制

次はコース制の問題です。いちいち読み上げませんが、こんなにコースがあるのです。何をやっているのか分からないですね、皆さん見ていても。僕もわかんないです、現場にいないと。一部、聞いている話では、豊橋南の運動コースというのは、小学校の運動会に行って体験をすること、名古屋西高校の創造表現コースではダンス表現をするとかだったり、文章表現の授業に宝塚歌劇団のシンガーソングライターを招いたり、特別講師を招いたり、演劇経験者を招いて授業の中で演劇みたいなことをやっているようですけれども、必ずしも大きな成功を収めているとは言えない現状です。

(オ)総合学科

総合学科も増えてきて、2022 年度の募集は県立 13 校（名古屋 2、尾張 4、三河 7）となっています。実は、総合学科への衣替えは一定成功している面もあります。例えば、瀬戸北高校の時代には困難校的な問題があったのですが、瀬戸北総合高校に衣替えをして定員割れもあまり無くなったし、大分落ち着いてきたということを聞きます。一方でどの学校にもある課題はあります。総合学科のピークもそろそろ過ぎたのかなと思います。

(カ)定時制

定時制の問題ですが、日本語を母語としない生徒が増加しています。これは私も知らなかったのですが、「ダブルリミテッド」ってご存じですか。幼少期から日本にいたりすると、母国語も十分ではないし、さりとて日本語も十分ではない、そういうどちらもうまく使えない「ダブルリミテッド」という困難を抱えているということが問題になっています。一方で、いわゆる発達障がいといった先天的な凸凹をもつ生徒も増加しています。もちろん通常の学校でも一定数はいるのですが、こうした生徒の増加も目立ちます。特に、定時制課程では授業で５～６人くらいの展開をして、一人一人の学力にあった指導が求められています。定時制を安易につぶすのではなく、有り様をいろいろと変えていく必要はあると思いますけれども、残していかなければならないと思います。

４．「再編」が危惧される地域

「構想」は全県を地区分けし、人口動態などを分析しています。県のコメントの中で、私が特に目を引く、心配だなというのは以下の 3 地域です。尾張東部・西部・東三河などの辺りです。尾張西部地域は先ほど触れましたが、あれで終わりということではないと思います。あとは東部の日進ですね。山間部は一定配慮すると県は言っていますが、逆に都市部ですね。蒲郡、豊橋の特に西側の方ですね、西三河の方に電車で変えよるという理屈で間引かれる危険性があるかなと思っています。このような統廃合の動きにも注視してい

かなければならないのです。県立高校の現状で十分かというと、そうではないし問題です。進学率一辺倒だったり、国立大学に何人入ったかだけが至上命題になっていたりするような学校の有り様は変わっていません。

５．私たちがめざす高校教育は

（１）春日井西分会、坂口氏のレポートより

そういう中で、先ほど触れました愛高教のつくった冊子があります。時間が無くなってきたのでいちいち読み上げませんが、資料の９頁に愛高教の副委員長の春日井西高校の坂口さんのレポートがあります。坂口さんは進路指導部でいろいろな生徒のニーズにあった進路を模索しながら、上から教師が教え込むような指導ではなくて、生徒が互いに学び合えるような指導を中心にやってきたという経験をされています。彼は、「内なる多様化」という言葉で、高校にコース制をつくったり、何とか学科をつくったり、専門学校みたいなことをさせたりする、そういうことが彼らの求めている多様化ではなくて、普通科という枠組みの中でも、我々教師や生徒の創意工夫でいろいろ多様な生徒のニーズに合った教育はできるのではないか、そういう問題意識ではないかと思うのですが、そんな問題提起がされています。あとで議論出来ればと思います。

（２）半田農業分会、森川氏のレポートより

それから 2 つ目に農業高校のレポートを紹介します。自己紹介しましたように、私は農業高校の経験がないのですけれども、このレポートをまとめるにあたって、この半田農業の森川先生のレポートを見て随分考えさせられました。農業高校には大きな可能性がある、生き物を相手に学生生活を送るということは生徒にとって大きな学び、成長になるのだなと実感しました。農業高校は畜産もありますから、動物も相手にします。もちろん、植物、農作物もあります。土を耕して、寒くても、暑くてもやるわけですよ。五感を使っての学びというものは、生徒の人生の中で確実に根付いていくのだということが分かりました。愛知県には私立の農業高校はありませんから、農業高校を守るということは公立高校を守るということになります。

（３）杏和分会、後藤氏のレポートより

先ほど触れた福祉科の問題ですが、海翔高校の福祉科が無くなるという、それでいいのかという問題です。歴史の浅い学科なので、これも分からないことが多いのですけれども、実は、国家資格を目指した福祉科の学校が若干あります。一番矛盾が大きいのは、豊川市にある宝陵高校です。後藤さんは、今は杏和高校に務めておられますが、その前までは福祉科の中でも「介護福祉士の養成校」として位置づけられる宝陵高校で随分大変な思いをされました。それはカリキュラムに大きな制約があり、入って来る生徒の基礎学力は大して高くないところで、一方では管理職から 100％国家試験に合格させよということで、教員は多忙で、生徒には無理をさせるという中で残念ながら退学をしていくという状況が生まれてきます。こういった福祉科の学校の問題点が報告されています（資料 10 頁参照）。

（４）千種分会、土本氏のレポートより

最後に千種分会の土本氏がまとめ的にレポートされています（10―11 頁参照）。結局、これは国の新自由主義的な教育施策の流れに乗っかっているので、なかなか大変な闘いなのですが、やはり、教育基本法に則り、教育は人格の完成を目標としたもので、枠や器が変わっても、そこに立ち返って、１人１人の教職員が生徒と向き合って対話を重ねながら人格の完成を目指していくということに尽きるのではないかと思います。

６．新入試（2023 年度）の概要

（１）一般入試　2/10(13)出願、2/22 学力検査（1 回）、面接 2/24, 2/27

最後に新入試のことに触れます。新入試は今の中学 2 年生から始まります。入試がずいぶん早くなります。2 月 22 日が入試になります。ちなみに、現行の日程は A 日程が 3 月 7 日、B 日程が 3 月 10 日になります。ですから、2 週間くらい早くなって、かつ、1 回受験です。1 つの試験で第 1 志望校、第 2 志望校の 2 つの判定をするということになります。面接も現行は必ずありますが、学校の判断になります。多分、私の勤務校はやらないと思います。そこは教職員の判断に委ねられているのですが、実際、面接は一般入試の合否に大きな影響を与えませんので、現場の声としては良かったかなと。でも、一方で、中学校からは「こんなに早くなっては、3 学期がなくなる」との悲痛な声を聞いています。それは後で愛教労さんから話があると思います。

公立高校の入試は、当日の学力試験がもちろん大事ですが、内申調査書も入ります。細かくて恐縮ですが、評定 90 というのは「５、４、３、２、１」が 9 教科で、最高が 5 で最低が 1 ですね。ですからオール 5 は、５×９＝45 です。それを 2 倍にします。だから、90 点満点になります。学力検査は一昔前までは 1 教科 20 点だったのですが、22 点になって、これが 5 つあるから 110 点になる。普通に考えれば、90 点＋110 点で評価するべきなのです。これがⅠ型（下の一覧を参照）。

ところが、うちは内申の方を重視したいから内申点×1.5 にしたいというように、学校毎に選べることになっています。実業高校などはこの方式です。うちは学力重視で学力試験を重視したいから、学力検定を 1・5 倍にしたいというのは、多くのトップ校、旭丘や明和など進学校と言われているところはこの方式です。

さらに、来春からはⅣ型とⅤ型が増えました。Ⅳ型が内申×２でさらに内申重視，Ⅴ型がさらに学力検定×２というので、さらに学力重視、この 5 パターンから選ぶということを各校で鋭意、今、決めているのですけれども、このⅤ型は、この夏、我々、入選協に出席していたものですからエリート優先主義だと論陣を張りました。

Ⅰ　評定（90）＋ 学検得点（110）
Ⅱ　評定× 1．5(135）＋ 学検得点（110）
Ⅲ　評定（90）＋ 学検得点× 1．5（165）
Ⅳ　評定×２（180）＋学検得点（110）
Ⅴ　評定（90）＋ 学検得点×２（220）　※Ⅳ，Ⅴの方式が新。

（２）推薦選抜 2/6

推薦は今も昔もあります。今は一本化でやっているのですが、かつてのように一般選抜と分離する形に戻しました。これは、高校側はそんなに反対がない、中学校側はわかりませんが。

（３）特色選抜（新設）2/6　（推薦選抜と同日）

もう 1 つ、特色選抜というのが大きな変化です。推薦とは別に、我こそはというものが特色選抜というものを受けることが出来ます。推薦と同日の 2 月 6 日です。一部の高校で実施されます。これはまだいいのですが、「地域に根差す、地域貢献を特色とする」高校で特色選抜をやっていいということで、僻地の学校はまだしも、都市部の学校でも、地域でボランティア活動や地域貢献活動を熱心にやっているから、我こそはと思うものはこの学校で挑戦したまえと、特色選抜を準備している学校があります。ちょっと心配しています。募集人員の 20%程度までを上限に、各高校が「何人程度まで」と具体的な人数の枠を設ける、としているのですが、まだ、詳細は明らかではありません。テストも普通の学力

テストではなくて、作文・基礎学力的なものでやるということです。根本にある大学区制には手を付けないということです。

最後です。資料の 13-15 頁に、大きな歴史の流れを略年表（資料：愛知県立高校「多様化」の進行）に書いておきました。1999 年の岩倉総合高校、ここらあたりにはじまって、第 1 次安倍内閣あたりから大きくいろいろと変わってきているのですね、特に 2016 年くらいから動きが急になってきました。以上です。有難うございました。

（＊以上、報告時間約 58 分）

司会

ありがとうございました。ここで、10 分程度休憩します。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・休憩（約 10 分）・・・・・・・・・・・・・・・・・・

司会

では、再開します。加藤さんの報告を受けまして、中村さんからコメントをお願いします。

II　コメント：中村茂喜さん（愛知県教職員労働組合協議会幹事、中学校教員）

愛教労の中村です。私は 1952 年生まれで、加藤さんよりは一回りほど年いっているかなと思います。名古屋市の中学校教員をずっとやってきました。定年退職後、図書館勤めもしましたが、教員不足ということもあるのでしょうが、声がかかって今も講師を続けています。現在は春日井市で毎日午前中勤務、中学 1 年生を相手に国語を教えています。組合は、小中学校には愛教組（愛知県教員組合）という巨大組織がありますけれども、私たちは今から 30 年ほど前に愛知県教職員労働組合協議会（愛教労）という形で小さな組合を立ち上げました。少しごたごたした経緯もありましたが、2004 年に愛労連、2008 年には全教（全日本教職員組合）に加わり、兄貴分の愛高教と連帯して活動しているという次第です。

加藤さんのお話に続けまして、最初に感想めいたことを含めながら、中学校側の教員として意見を申し述べてみたいと思います。私も永く愛知県内の中学校教員をやってきました。生まれ育ちは静岡県浜松市ですので、多少、愛知県はこういうところなのだなと、比べながら見ることが出来ます。私が思うことは、愛知県は教育にお金と人手を掛けないことです。大変裕福な県なのに、こと教育に関しては安上がり政策を続けています。2 点目としては、今日の話題の入試にも付きまとっているように、格差と競争が活力を生むというような発想がにじみ出ていることです。報告にありました計画進学率のことは後で詳しく触れますけれども、全国一低い全日制進学率が続いていて、進学率を教育政策的に抑え込んでいます。3 つ目として、現場を直接預かる教員や保護者や子どもたちの声を聞かない、政財界・行政主導で思うままに操ってきたのが、愛知県の教育です。

それでは、手短にお話します。前半は、中学から高校へと進学するときの進学率です。全国最低を 30 年続けている愛知県ということに触れます。後半は、今の中学 2 年生もうすぐ 3 年生ですが、来年度から高校入学試験制度が大きく変わるということです。これについては、高校の先生方と違う中学校側の立場から、「えらいこっちゃ」「大変なことになるな」ということを報告したいと思います。

では、画面に提示されている「愛知県 2023 年度からの『公立高校入試制度改変』につい

ての愛教労の見解」の資料３（進学希望率及び進学率（実績）の推移）の左下を見ていただきます。このグラフは進学率ですが、昭和 45, 46（1971）年あたりで、ほぼピークに到達したということになります。つまり、9 割近くになった全日制進学率は、その後 50 年間変わらないというのが愛知県なのです。言い換えれば、今もって 10 人に 1 人は全日制高校に行かない、私たちからすると行けない県が愛知県です。一向にこれが改善されていないということなのです。県教委（愛知県教育委員会）は、実学志向だとか、早く社会に出たいのだ、そういう希望が多いのだ、と言っていた時期もありましたけれども、実態としては加藤さんがおっしゃったように、策定された計画進学率のもとで抑え込まれてきたのが愛知県です。

資料４は、毎年愛知県で発表されている進学者数・進学率のうち、2021 年 3 月卒業の結果の一部です。2021 年春の全県の卒業者数が 67,418 人で、赤い矢印をつけたところの全日制進学率が 89.36％です。何と 9 割を切っているわけです。今から 3 年前までは、男女別で数値を出していたのですが、その後出さなくなりました。資料４は第 1 ページのみですが、全体の冊子は、全市町村別、学校別に表にしてあります。労働会館で研究会があれば、その冊子を渡そうと思っていましたけれども、残念です。繰り返しますが、全日制進学率は男女計で 89.36％です。男女別にすれば、全日制進学率が 8 割を切る学校が県下にゴロゴロあります。

次に、「全国最低ライン」と書いてある資料５をみて下さい。ちょっと古い資料で申し訳ないのですが、上から、山形・岩手・石川県にはじまって、愛知県は一番下なのですね。断トツで全国最低を 30 年前からずっと続けているのです。さらに、私の汚い筆ペンの書き込みの数字を見てください。1988 年 3 月、この時に卒業生が一番多くて、116,450 人ですが、2022 年 3 月卒業生の見込みは 69,664 人なのですよね。つまり、少し山型になってずうっと長期的に中学卒業生が減ってきて、ついに 7 万人を切りました。差し引きすると、この 34 年間で 46,786 人減ったのです。言い換えれば、希望者が全員高校に行きたいと言ったら、ぶかぶかに入れるはずだったのです。それが 10 年経とうが、20 年経とうが、30 年経とうが、9 割を切るような状態が変わらず続いているのが愛知県なのです。生徒数が少なくなっても、県当局がまさに計画的に抑え込んできた進学率だということを知っておいていただきたいのです。

資料６を見ていただきます。「矛盾は通信制課程へ」というタイトルですが、愛知県（2021 年 5 月）と全国（2020 年 5 月）で比較するとよく分かります。表の進路先に「高等学校等」とあります。「等」というのが微妙で、通信制まで含むものです。進路先の割合が「高等学校等」では、愛知県が 98.4％、全国が 98.8％でほぼ同じなのですね。次の「高等学校」では、愛知県 97・0％、全国 96.8％でこれもほぼ同じですが、Ａ全日制課程とＣ通信制課程が大きく違います。通信制課程は愛知県が 6.3％で全国が 3.0％で、愛知県は、全日制課程における全国平均から-3.5％のへこみを通信制課程で補っているのです。通信制はここのところ増加しており、報告にありました N 高などという広域通信制などが伸してきました。テレビのコマーシャルでも流されています。不登校の生徒が増えて気軽に入れるイメージで広域通信制に流れている部分もあります。愛知県の通信制 6.3％というのは、全国的にも本当に特異なことなのです。

県内 4,000 人余の子たちが、通信制に入学していますが、旭陵高校とか刈谷東高校とか、公立の通信制に進む割合は少ないのです。また、愛知県の場合は専修学校に併設している「高等部」に進学する子がかなりの部分を占めます。では、専修学校や N 高など全国展開している広域通信制高校に、親子が本当に希望して行っているかと言えば、そうではない

のですね。私は中学校の教員をやってきましたので、わかります。中学 2 年生の最後の指導要録には、全員「高校進学希望」と書きます。ゴム印 1 つでいいのですね。全員高校進学希望、それ以外はまずないのです。問えば、「昼間の高校に希望します」という返事です。昼間学校に通う、当然のことなのです。親たちもほとんどそうなのですね。ですから、1 学期の最初の段階から通信制に行きたいという子は、まずいないのです。昨今でしたら、広域通信制のコマーシャルが結構流されていますので、そういう志望があるかもしれませんが、実際は 3 年生の初めのところでは、みんな昼間の高校に通いたいというのが本音です。この話をしますと尽きませんので、後半部分にいきたいと思います。

資料の 1 ・ 2 に戻りたいと思います。今の入学試験制度（複合選抜制度）が始まったのは、非常に覚えやすくて、1989 年、令和元年度からです。今年で 34 年ですか。加藤さんの報告にもありましたように、今 40 歳台後半の人までこの複合選抜入試を受けてきたのです。2017 年に多少の改変がありました。それは推薦入試と一般入試を別々にやっていたものを、推薦を一般に含むような形で一緒の日にやることにしたため、日程として推薦が後ろにずれました。それを、今度は随分変えようとしています。どんな風に変えるかは、先ほどの報告資料の 11 頁にあります。それぞれの立場から意見はあるでしょうが、ここでは愛教労としての意見を手短に言いたいと思います。

まず、今回の入試制度改定によって、生徒たちが楽になったか、中学校の教員がいい制度になったと評価するかと言えば、そうじゃないですよね。そのようには捉えられません。問題の一番目として、推薦選抜を一般入試と一緒にやっていたものを元のように戻すので、推薦という早期選抜が復活します。また、この推薦入試に向けての指導や事務が復活することになります。推薦制度で一番多く行く学科は普通科ですが、普通科に行く子たちが、その学校に推薦で行きたいという志望があったとしても、特段の推薦理由がつけられないというのは当たり前ですよね。工業や農業科などでは、本人の得意分野や志向とか、家業を継ぐとかがあります。普通科に関しては、特別に面接が必要なのか疑問がわいてきます。個人差としては学力の程度や部活動など諸活動の有様くらいです。それをまず思います。推薦入試のために指導の時間と労力が要る、中学校側にまたまた負担がのしかかるということです。

2 番目としては、これが大変なことでして、加藤さんは公立高校ですが、中学校側の対応は私立と公立、公立でも定時制と通信制とあるわけです。私立の方が公立よりも早くなるので、入試日程が前倒しになってしまうのですよね。今までは、2 学期の成績でもって私学の入試に使いました。公立で使う 3 学期分は、冬休みが明けてからの学年末テストを終え 1 年間分まとめての成績を出し、それをもって公立を受検することにしてきました。そのパターンがまるっきり狂ってしまう、狂うというか大幅前倒しになってしまいます。改変された通りなら、私立は 3 学期明けると、即試験ということで、試験も推薦入試・一般入試が 1 月中にあり、そして 2 月中に公立の推薦と一般入試が来てしまうと、3 年生の 3 学期はまったく吹っ飛んでしまうのです。

入試を受けるというからには、担任と本人や保護者との相談作業があり、その必要手続きをしなくてはなりません。中学校側は、2 学期の半ばから受験のための準備事務・確認作業を進めなければならないし、子どもたちや保護者も進路選択という決断をしなくてはなりません。2 学期の後半、11 月・12 月ころからバタバタし始めて、ちょうどそれが中学校行事の文化祭や体育祭とか、あれこれ学習発表などが錯綜して、従来やってきたことが狂ってきてしまうのですよね。そういう矛盾をどうしてくれるのかというのが、中学校側の教員の声であり頭を痛めるものとなっています。入試の中心に据える通知表・評定そのも

のも、私立の内申点はいつのものでいいのか、1学期だけじゃ困るだろうし、2学期と言っても、どこで線引きをすればいいのかということになってしまい、これから県全体で決められるでしょうが、戸惑いばかりです。

3つ目に、学力検査についてです。学習指導要領などでも謳われていますけれども、「対話的で深い学び」ということで、授業でも深く考えることを柱にしてきました。それで、総合的な思考力を測るものが入学試験ということなのですが、今度から、解答はマークシート方式ということです。高校の先生たちにとっては大学入試もマークシートということで馴染みもあるかも知れません。しかし、中学校教員は謳い文句として「豊かな心」「深い学び」「表現力」でやってきたものが、いきなり項目の選択、マークシートのつけ方で決まっていくというのは、何ともかんとも頭の中がつながりません。子どもたちに対する指導のあり方として困ったものになってしまいます。それから、合格者決定方式については、評定と検査テストのバランスをいままで3パターンあったものを5パターンにして、各高校がいずれかを選択するということですから、検査テストを重視するのか、評定を重視するのか、5つのうちどれか、こういうことも中学校教員としては振り回されっぱなしのような気がしますね。

4つ目に、中学校と高等学校で前期・後期とするならば、後期中等教育をどのようなものにするのかということです。21 世紀のグローバルな時代、コンピューターが生活のあらゆるものに入ってくるような時代に、それを自由に使いこなせる人間になるには、本当に深く学び豊かに育てる教育が必要です。そのためには、すべての子どもたちに手厚い後期中等教育を保障する責任があるのではないかと思うのです。それを競争や序列によって振り分けているのが今の教育です。1割の生徒は昼間の高校に行けないよ、行けるのは「教育困難校」しかないよという脅しの教育でやるならば、本物の教育は出来ないと思います。「教育愛知」というならば、もっともっと人もお金もかけて全員が高校教育を受けられるくらいの制度を作る、これまでの貧しい発想を転換する必要があるのではないかと思うのです。

最後に体験談をひとつ。私は、中学2年生を担当したときに高校を訪問しました。中学2年生たちをグループに分けて引き連れて出向きました。私立高校に行くとピカピカですよね、校舎が輝いています。お金がかかっているのです。学びの場として魅力的ですよ。そして、県立高校に行くと本当に古びて煤けているのですよね。お金がかかってないなと感ずるわけです。やはり、お金を出すこと、教育への投資を惜しんではいけないと思います。加藤さんの話にあったように、「教育困難校」というならば、困難校に相応しく、人をたくさん増やして学級の人数を減らせばいいのですよ。40 人を 20 人・15 人にしたらどうですか。お金もどんどんつけて、いろいろな実験材料や施設・設備やらを拡充すれば、どんな子でも、大人たちの熱意を感じ取り、励まされて学び直しが出来るような子になっていくと思うのです。それをぜひお願いしたいなと思います。長くなりましたが、以上です。

（＊以上、コメント時間約 24 分）

司会

有難うございました。5分ほど休憩をして、質疑から入って行こうと思います。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・休憩（約5分）・・・・・・・・・・・・・・・・・・

Ⅲ　質疑応答など

司会

報告とコメントを受けまして、討論が分散しないように、まず、御二人への質問に限定して、コールサインあるいはリアクションを出していただければと思います。事実関係を中心とした質問です。

発言者

第 1 に確認したいことは、新入試制度になっても大学区制とか群とかは変わらないということですね。それから、昔、「愛知版」という資料があって、愛知の恥になるような「進学率最低」などというようなことが資料に出ていたのですね。皆から批判され、慌てて愛知県が取り消したことがあります。30 年以上続いているというこの進学率の理由について、はっきり言われているのかどうか、教えていただきたい。これが第 2 点目です。さらに、お金を掛けないとか、父母の意見を聞かないとか、これはまあ、競争が活力を生むというような、だいたい同じようなことを言っているのですが、これは一貫して変わらないと見てよろしいのでしょうか。これが 3 点目です。

司会

では、まず加藤さんから。

加藤さん

学区と群のことですが、新入試になっても学区と群は変わらないと私が申し上げたところですね。それは、1989 年からの複合選抜制度と全く同じ学区割、群分けです。だから、大きく尾張と三河に分けます。すごく細かいことを言うと、私は豊明市にある豊明高校に勤務していて、そこは尾張と三河との境界線なのでちょっとだけ一部刈谷市に入るなどということはあります。しかし、原則的には尾張の子は尾張、三河の子は三河となっています。複合選抜でまず 1 郡か 2 郡かを選び、そのどちらかで A 日程か、B 日程かを選ぶ、併願の仕方の、この考え方も変わらない、ということです。

発言者

進学率については？

中村さん

進学率は結果なので、結果として全日制進学率、定時制進学率など、先ほど示したように、混ぜた高校進学率でいうと愛知県は 98%まで行きます。これは通信制まで含めます、もちろん高専も含まれます。県としては全日制計画進学率を 1992 年までは 91%、91 年から 93 年までは 92%、1996 年からは 96%に設定しました。これは計画した全日制の公立プラス私立の進学率です。加藤さんが触れたように、今度はその計画進学率を「計画見込み率」の呼称にしました。いつまでたっても 93%に届かないので、名称変更して 91.5%にしたということなのです。これは通信制に流れちゃう、今の指導日程からして流しちゃうという部分もあります。やはり実際の全日制への進学実態から、公立と私立があるのですが、従来の結果を見ながら、「君の場合だったらね」ということで、いわゆる通信制に関わる専修学校に紹介するという部分が出てきちゃうのですよね。毎年変わらない計画進学率があるので、1 学期の終わりから 2 学期の始めにかけて体験入学をさせながら専修学校・通信制に誘導していくこともあります。

加藤さん

ご質問とかみ合わないかもしれませんが、私の問題意識として、計画進学率を敢えてこの間まで 93%だったものを 91.5%にしたことについての県の言い分としては、最近、通信課程や広域通信制などを選ぶ生徒が結構いるということ、一昔前は 300 人以上もいたという中学校卒業者を対象とした高等専修課程、トヨタの養成工みたいなものが、かつて 1970

年代に盛んだったのではないでしょうか、このように愛知の独特なニーズがあるからというような理屈ではなかったかなと理解しているのですが。いかがでしょうか。

発言者

当時、それはよく言われていました。私は東郷町在住で、さっき言われた３Ｔの中心で愛知郡の教育を守る会というのをやっていました。工業高校は、就職がちゃんとできるのでまだいいのですが。

発言者

就職の関係で進学出来ない人の率は分かるのでしょうか。

中村さん

2021 年春の場合、就職した者は全県で 160 人です。進路相談の中で就職を希望しても、求人そのものがない、見合う職場がないということで求人はもう枯渇しているような状態です。事業所ではなく家事に従事する場合も就職として中学校側が判断します。しかし、経済的な理由でそうせざるを得ないという人たちで、進学意欲などがあるならば、定時制などに進んでいるのではないかと思います。その場合は就職にカウントされずに、全部、定時制という高校進学でカウントされています。

発言者

昔、愛高教にいました。今は違います。加藤さん、中村さん、全体的なお話をされまして、有難うございました。加藤さんの話に出てきたコース制と全日制単位制とはどういうものなのか、とくに全日制単位制は単位制ですが、9 時ごろに学校に行ってどういう感じなのでしょうか。それから、僕は今、ワーカーズコープ東海事業本部にいるのですが、ここが、愛知県の外国人労働者応援委託事業ということで、高校卒業認定試験の資格を取る応援をしていたりするのです。僕は、この 3 月まで、高校を中退して定時制にいった子、現役の中学生で不登校気味で、津島の定時制に行った子、そうした子たちを教えていました。今回の入試の改変で、かなり入試が前倒しにされるということでした。今年は 3 月 4 日に入試があり、僕の教えた子たちはめでたく皆合格しましたけれども、そうした定時制の子たちも入試が前倒しされるのでしょうか。

司会

まず、コース制の事、加藤さんお願いします。

加藤さん

コース制について、今画面に資料が出ていますが、19 種類のコースが 28 校にわたってあります。私は、実際に 1 つもコースで働いたことがないのですけれども、例えば、情報活用とか情報ビジネスとかはそもそも入学時に決めていなことが多いです。想像ですが、情報ビジネスを選んだら、物理の代わりの授業をやるとか、国語の代わりに作文指導をやるのでしょうね。ビジネスと言えば、エクセル（Excel）の習得とかそういう事をやるんじゃないのかな。国際系は、本当に分かりませんが、英語みたいな授業が多めなのかなあ。国際理解というと、歴史とかそういうものも増えているかもしれないですね。教育系というと、さっきも紹介しましたけれども、小学校にいって行事を見たり、運動会を一緒にやったり、そういう時間が毎日ではなく、ある程度有るということです。名古屋西高校の創造表現コースでは、演劇を経験している先生が、体を使っていろいろ表現するような選択授業を意識的につくっているということですね。そのクラスでは学級担任も演劇部の顧問がやっています。逆に言うと、その人が転任したら来年から出来ないようなことをしています。ある意味で、工夫しているのは学校の自立性かもしれませんが、何か一面的な模索のような感じがします。曲者なのが企業連携コースで、守山高校と幸田高校で、実は、この 4

月から始まりますが、これも得体の知れないものです。守山高校や幸田高校の近くにそんな大きな工場があったかなと思うのですが。

司会

デンソーとソニーがあります。

加藤さん

幸田町にはソニーがあります。そういうところでは受け入れてもらって 1 週間くらい一緒に働くのかもしれないけれども、守山高校の辺りだったら、スーパーとかいろいろ散って行って職場体験などをするのではないでしょうかね。そんな感じ。理数というのはまた別で、教育的に理数に力を入れていくのではないかなと思います。

司会

普通科をベースにしているのですよね。普通科に色を付けていると。

加藤さん

その通りです。

中村さん

過年度生のことですが、最近は高校中退者がさほどいなくなりました。ひと頃は、全県で 3,000 人とか 4,000 人というかなりの中退者がいたようです。中退してどこへ行くのか、そのまま社会に出ていく子もいたでしょう。しかし、やはり高校に戻りたい、高校卒の資格を取りたいという子も、おそらく大勢いるはずですよね。おそらくかなり定時制に入っているのではないかと想像します。公立再受験もあります。私学は、過年度生は嫌うというか、事実上入れないですよね。でも、これからの時代、やはり学び直しというか、再習得というか、そういうチャンスを与える学校というか、中等教育制度が、もっともっと弾力的であってもいいのではないかと思います。少し前に調べたのですが、ある県では高校進学率の設定のところでも、再入学をめざす過年度生も含めてカウントして、枠を広めていると聞いています。僕はその辺り、これからの高校教育が、定時制や今のコース制も含めて、もう少し学んでいる子たちに、学び終えられなかった子たちにも優しい制度というか枠組みというか、支える受け入れ態勢が欲しいなと思っています。

加藤さん

単位制について、分かる範囲でお答えします。単位制に対する概念は学年制です。私も何度も学年主任をやり、年度末、悩ましいことがありました。このままでは進級できないと、欠席が嵩んで、我々の業界でいう履修が認められないので進級が認められないという子が、今いう、広域制通信制高校に転学するということはよくありました。その時、現行の学年制では、例えば、物理の授業だけひたすら休んで履修を認められないので進級できないとなった時に、じゃあ、国語や数学は出席時数が足りているのだから、1 年生が終わったことになるのかというと、なりません。2 月で終わったことになってしまうと、ならない、という制度ですね。しかし、単位制になれば、例えば、物理の単位は取れなかったけれども、国語や数学は単位が取れたから、条件が合えば 1 年生の物理の授業を取ることができるのかなあ、と。でも、好きな時間に来て、好きな時間に帰れるみたいなことにまではならない、そんなことではないかなと思います。だから、一概にそれが不当だとか、とんでもないということは言いにくのかもしれません。ただ、いろんな矛盾が出てくる可能性はありますね。

司会

私の勤務していた学校は県内で最初の単位制の学校でした。私は既に骨格が出来ている時に赴任したので、その経緯そのものは間接的にしか聞いていないのですが、単位制とい

っても、大学のようにこの時間だけ出ていればいいという形にすると、高校教育そのものが解体してしまうので、通常の学年制をベースにした単位制です。例えば、1 単位でも落とすと進級できなというシステムになっているのだろうと思うのですが、かなり、緩くやって、1 年生から 2 年生に進級するときには、卒業のために必要な単位数は 74 単位ですが、1 単位でも取っていれば 2 年生に進級できる、と。2 年生から 3 年生なる時には 16 単位、3 年生で卒業できるのですが、3 年生から 4 年生に進級できるのは、45 単位というような条件を付けて、単位制というものを運用しています。学校教育は、手かせ足かせがいろいろとあるので、それが掛からない形で、学校の裁量でやれたというメリットがあったのかなと、思っています。

発言者

入試の改変によって、定時制の子たちも入試が前倒しになるのですか。

加藤さん

先ほどの入試改革の件は、定時制には関係ありません。定時制には大きな変更はありません。

司会

今、定時制は前期日程、後期日程となっていて、それは変わらないはずです。前期が 8 割程度、後期が残った部分で再募集ということになると思います。それでは、あと 1 時間程度ですが、討論に入っていきます。

発言者

今年 2 月 13 日の高校再編問題についての県民集会に、その会場が自分の家の近くだったので参加しました。海翔高校のあるところです。その時の話では、海翔高校が無くなると海部南部から県立高校が 1 校も無くなってしまうということです。加藤さんもご指摘のように福祉科では、介護福祉士など国家資格の合格者が出ているという話を後程聞きました。何よりも、最初、海南高校と蟹江高校という話が 2005 年に海翔高校になり、まだ 17 年しか経っていないのに、それを無くしちゃうということです。弥富・蟹江・飛島村という海部南部に 1 校も県立高校が無くなると、逆に、稲沢など北部の方には 7 校も高校が残っていると、そんなおかしなことはないということで、自分もその集会で提起された署名も若干集めてみました。地元の人は、「やはり、そんなことはおかしいよね」ということで、大体署名してくれました。また、私が有償ボランティアをしているところの責任者の人が言うには、海翔高校とか統廃合の対象になっている稲沢東高校ですか、そこでスクールソーシャルワーカーをやっている人から、先ほどの若者未来外国人事業に関わって、学びに困難を抱えている子たちを受け入れてくれませんか、というご相談を受けていますし、そういった学校が無くなるのは惜しいという話も聞いています。もちろん、地元でも、海翔高校のようなところは生徒の質が悪いかどうかわかりませんけれども、無くなってもいいのだという声が多くあるということも聞きます。

それから、3 月 19 日に、現役や OB の人たち、弥富市の地元の人たちも含めて、福祉の拠点校・海翔高校を存続させる会というものを立ち上げて地域で運動をやるということを決めました。それはいろいろな経緯があるのですが、愛高教として、この再編問題に対して、例えば、この統廃合の問題に対してどこまでどういう運動をしていくのでしょうか。私が県民集会で聞いた限りでは、署名や議会への請願活動ですか、それ以外にどういう運動をしていくのでしょうか。

加藤さん

前向きなご発言を有難うございます。2 月 13 日の集会ですが、愛西市でこの問題で憲法

と教育基本法を守る会と私ども愛高教とで主催して、73 名の参加でいい会が出来たと思っています。その時にも皆さんにお願いしましたけれども、まず署名ですね。県の再編構想を撤回する署名を全力で集めています。3 月 23 日に教育委員会に提出する段取りになっています。もうあと何日もないので、まだ 3 千数百ですから、全力で集めて何とか一定の量までもっていきたいと思っています。また、愛高教として、弥富市議会・稲沢市議会・一宮市議会に請願を出しています。様々な議員さんからも側面から応援していただき、愛知県に対して市議会から意見書を出してもらえんかと提案しているところです。3 月議会ということで、3 月 23 日前後に議決されるかどうか期待しています。3 月 23 日は、教育委員会に署名を提出した直後の 17 時から県庁で記者会見を行う予定です。愛高教の役員や憲法と教育基本法を守る愛知の会、そして、県民集会でも発言していただいた鈴木裕美さん、介護士になって何年目かの方ですが、この方も急遽駆けつけてくださるということで、記者会見にも臨んでいただけると思っています。記者会見の場も設けて、もうひと踏ん張り、県民世論に訴えていきたいと思っています。

今、海翔高校を守る会の立ち上げを準備されているとお伺いしましたが、すでに少し聞いていて、大変心強く思っております。少なくとも愛高教尾南支部の方から関わるように、私ども本部からも指示したいと思います。地元の方に連帯して運動していけたらいいなと思っております。残念ながら稲沢東高校や尾西高校の周辺では、まだそこまでの運動は聞いておりませんけれども、簡単には諦めずに頑張っていきたいと思います。ただ、県の動きはこれだけに留まらず、次なる県の一手が出てくる可能性があるので、総合的に、県の動きに対して闘っていかなければいけないと思っています。

発言者

県民集会の時も、愛西市か稲沢市かわかりませんが、地元の小中学校の統廃合で闘っていますと、地元で会なりをつくって運動をやったら、取り敢えず統廃合は何年か待ちますよという発言がありました。我々としても地元でムーブメント、世論を起こして、取り敢えず海翔高校については、移転統合から 10 何年しか経っていないし、県教委の失策ではないのか、福祉のソーシャルワーカーなどを沢山輩出している地元の高校をつぶしていいのかなど、そうしたところで運動しようかと思っています。海翔高校の方もメンバーに入ってくれるということで、多分、ご夫妻で入られると思うのですけれども、現役の人たちとも一緒になってですね、また、地元で請願の時に紹介議員になられた共産党の議員 2 名にも会に入ってもらうことで了承していただきました。お 1 人は今度の 19 日の会にも来られます。

こういう運動は保守の方も巻き込んでやらなければいけないということを常々言われていたような気もするので、地元で別の問題で出会った自民党員と思われる人ですが、非常に見識の高いと思われる人にも会に参加してもらえるように了承を得て、今後、運動を進めていこうと思っています。僕のいた頃よりも愛高教の組合員数も減っていて、なかなか運動的にも網羅的には進められないのかなと思い、地域で側面から支援するというような意味もあってやらせていただいています。県の構想では、尾西高校も無くなりますよね、これについても一宮方面の人から、この統廃合問題でもそろそろアクションを起こす段階に来ているということを、しばらく前にライン（LINE）で聞いています。多分、一宮でも運動が起きる可能性があると思います。

発言者

質問です。細かいことで恐縮ですが、加藤さんの報告の最初の方に、県の教育委員会が決定したというところで、「具体化検討委員会を設置し」と書いてあります。この具体化

検討委員会には愛高教の方は入っていないということでしたが、この検討委員会のメンバーは公表されているのかどうか、というのが 1 点。また、委員会ですから議事録がつくられていると思うのですが、その議事録は公開されているのか、あるいは、請求すれば議事録を閲覧できる形になっているのか、愛高教として入手されているのかどうか。3 点目に、具体化検討委員会の審議過程は、教育委員会の下で設置されているから、教育委員会には報告されていると思うのですが、県議会に報告されたり議論されたりしているのか、議会との関係はどうなっているのか、以上、3 点をお伺いしたい。

加藤さん

いい質問です。検討委員会は非公開です。議事録も非公開だと思います。メンバーも非公開です。全く密室の中での会議です。なぜ、そこまで自信を持って言えるのかというと、一ヶ月くらい前に愛知県議会の新生愛知会派の瑞穂区選出の高木ひろしさん、元愛高教の見崎さんともお知り合いだと自己紹介された高木県議からわざわざ私どもに連絡があり、県議会にほとんど説明がないので、愛高教さんに教えてもらえないかと、愛知県庁近くにある高木さんの事務所の部屋で 1 時間半近く話をして、「これはいい話を聞いたと、県議団で話をして取り組みたい」という調子ですから、十分な資料が議員にも提供されていないと思います。

発言者

私は、管理教育反対で、ずっとやっていた時期があります。さきほど、３Ｔの 1 つの豊明高校で、最初、駒のように働かされたと言っていましたが、それがその後変わったとみていいのでしょうか。全体として県の管理教育は緩まっているのですか。

加藤さん

全体としては緩まっていますね。校則については、今はブラック校則というのが多いものですから、身だしなみ指導という、服装検査的なものは年に数回ありますが、まあ、ほどほどであれば合格という感じです。校則の文面がクリアに変わったというよりも、教職員の意識や管理職からのそのことについての締め付け的な圧力は緩んでいるように思います。

私が一番感じることは、進学至上主義みたいなものが、議論は分かれると思いますが、緩んでいます。私が赴任した 2006 年度頃には、学年主任が競い合って、この学年は国公立大学に何人入れるぞ、みたいに気勢を上げ、それに対して息のかかった 1 兵卒の担任が自分のクラスから模試の成績を上げていくぞというような眼の色を変えてというような雰囲気がありました。しかし、その後、校長も何代か変わり、あまり無理を言わない校長が続いたこともあって、あとは、私も学年主任をやりましたし、私もあまり言いませんでした。もちろん、生徒が希望する大学に行けるように、後押し、応援はしますが、ノルマ的に「お前は絶対に〇〇大学に入らなければいけないぞ」というような、そういう指導をする人は減ってきました。私と立場を異にする人からみると、指導体制が緩まっている、気合が入っていないという批判があるかも知れないけれども、ある意味、過ごしやすくなってきました。

2006 年、7 年くらいまでは夜の 10 時まで残っている教員がいました。それが、勲章、プライドみたいに、夜の 10 時まで残って、学校の鍵を最後に持って、そういう「プライド」を持っている教員がいました。しかし、まだまだ長時間・過密労働はあるけれども、教職員の働き方が長いという批判があって、今は、管理職が長時間労働を管理しなくてならないので、教頭がずっと残っていて、かつて午後 7 時 55 分くらい前には「鍵を閉めますよ」と言っていたのが、最近では午後 6 時 50 分くらいに「もう閉めますよ」と、そんな風にあ

まり無理をしないようになって来ています。ただ、一部の部活動を熱心にする先生は、何としても自分の部活動を勝たせたいみたいなことがありますけれども、自分の周りで見ている限りでは大分その辺は緩まってきているなと思います。答えになっていないかも知れませんけれども。

発言者

さきほどの校長なども暗中模索で、大学進学や地域変化を見据えて、分かってないのじゃないかと思います。その上に「DX」人材育成とか、名前だけ見るとスウェーデンなんかと同じことを言っているのではないかと思うのですが、スウェーデンの場合は、何が大事かというと全員が自由に教育を受けられるように、教育費をタダにするとか、嫌になったらいつでも戻れるような教育システムにしておくとか、いろいろな工夫をしているのですよね。北欧なんかはほとんどそうですが、日本は全くそういう事をやらずに、活性化だとかなんとか言って、差別したら競争力が出るみたいなことをいつまでやるのかなと、少し良くなってくるのかなと思ったら、聞いていると依然として同じようなことをやっているようです。

それから、最近、民主主義という点でも、私のいた大学でもそうですが、教授会でまともな議論が出来なくて、部長が指名されるような状況になってきました。このように議論ができない、トヨタが進めている「報連相」的なことを教育の現場に、大学にまで広めてやってくるということは全くナンセンスだと思うのです。そんな管理されたところから起業家が生まれるはずもないし、人材もそんなに育たないと思います。

秘密会議でいろいろやっているようですが、何をめざしてやっているのか、大人の責任は、将来こういうことを目指してやっているということを子どもに示すことだと思っていますが、日本の場合はほとんどそれが見えない、可哀そうなくらいです。

進学率の議論も、スウェーデンの人が聞いたらびっくりするのではないかと思います。もっともっと自由にいつでも進学できるような、戻れるようなシステムをつくればよいのです。出来ている国はいっぱいあるわけですから。中学卒業したら必ず高校に行かなければならばいということでもないし、高校卒業したら大学に行かなければいかんという話でもないし、年を取って、こういうことをやりたくなったら、また戻ったりすればよいのです。学費は無料ですし、手当も出るので戻れるわけですね。日本ではどうして進まないのか、非常に不思議に思います。

コース別とか多様化するのは、いいことですが、先ほど国際化の問題が触れられていましたけれども、ただ、英語が出来れば国際化だということはないですよね。ヨーロッパの若い人では、英語を大体しゃべれる人が多いですね。そうすると、地球変動で環境問題がどうなっているのか、平和の問題もそうですけれども、そういう問題がかなり議論されていて、子どもでも興味を持って、将来自分たちの問題として議論したり、立ち上がったりしているわけですけれども、日本では全然起こらない、起こらないところでこういう事をやっていてですね、本当に、日本の政治家というか、教育はどうなのだろうと、つくづく感じています。

司会

ずい分難しい問題提起ですが、加藤さん、中村さん、いかがでしょうか。

加藤さん

有難いご指摘だと思いますね。結局、今の県がつくっている将来構想の大本は、お上がつくっている、安倍内閣の数年間の中でつくられてきた教育改革の流れの中に乗っています。それは、新自由主義の国際社会の中で日本が勝ち残るためにはグローバル化に対応し

た力のある日本人を育成しなければいけない、簡単に言えば、エリート教育をしなければいけないよ、いうことなのです。多分、安倍晋三や橋下徹氏などの頭にあるのは、東京や大阪は私学の活力でエリート層をつくってきて、公立はなっとらんということで、大阪なんかは、公立をつぶしていますね。今の県教委幹部の中には、愛知を第 2 の大阪、第 2 の東京にしてはならないという気持ちがあるのかも知れません、幸い、旧制中学の流れで旭丘や時習館が県内のトップ層に君臨しているけれども、いつまでもそれを保てる保障もない、じわじわと県立高校の不振が続いています。その中で、どうするのかという一手だと思うのです。

今回は「人気のない学校」をつぶすということで見えてきたのだけれども、我々は、そういうエリート層を囲い込むような「改革」も出てきそうだなという警戒感も持っています。今の校長連中が何を考えているかというと、こういう統廃合の流れがどんどん来ているものだから、自分の代で不人気にしてつぶしてはいけないという生き残り策で汲々なのですね。ですから、どの校長も中学校を回ったり、うちの校長などは塾も回ったりしていますからね。塾に行って自分の高校に来ないかと、そういう企業努力をしないといかんという発想になっているのですね。県も、そういう努力の足りない学校を教員評価制度も入って来ていますから、校長はそれで給料を査定されますから、そういう意味でも頑張らざるを得ないということです。

中村さん

それぞれの高校で、「わが校を良くしたい、地域の中で良く思われたい」という心情はわかりますが、私は、愛知の高等学校教育が包容力のある子どもたちに温かい教育を進めるところであってほしいと思っています。先ほどの言葉を繰り返せば、学び直しの出来る、戻れるものになってほしいと思っているのです。今の管理教育は、体罰や服装検査などの躾教育よりも、根の深いところを引き継いだ形での序列と脅しの教育としてまだまだ続いていると思います。その 1 つの表れが、このままでは高校に行けないぞという、低い計画進学率に抑え込んできたことです。

私の体験を一つ挙げます。今年は春日井市、昨年はコロナ禍の中で大治町、その前は名古屋市と、3 つの自治体を渡り歩いてみてのことです。例えば、中学校にあがると、定期テストがあります。今の学校もそうですが、1 年生が 1 学期に中間テストを受けます。コンピューターがあるので、1 学期の最初にやったテストの平均点が出るのはもちろん、教科ごとに、200 人のうち 1 番からビリ（200 番）まで出ます。はたして、それは教育的に意味があるのかということですね。そうすることで、子どもたちの意識の中に序列がずんずん沁み込んでいくわけですよ。今から 20 年くらい前、私は名古屋でしたが、1 年生から順位をつけるのは止めようとか、2 年生だったら 10 段階ぐらいにしようとか、3 年生になると入試があるので、位置関係が分かり参考になるから順位やむなしということで付けるとか、皆で議論しながら、ほんのささやかな改良をやりました。今は、数字を放り込んだら全部コンピューターが計算してくれるので、それをそのまま、子どもたちにも親たちにも伝えているという悪い慣行が蔓延しています。どうかすると、高校があるぞ、評定が下がるぞ、という脅しや序列主義が一向に抜けないなという感じがしています。辛くなります。

発言者

教科ごとに全員に分かるわけですね。

中村さん

そういう学校もありますね。コンピューターで自動的に出てきますから。

発言者

自分がビリだということが教室に張り出されるのですか？

中村さん

そこまではね、張り出すまではやりません。

発言者

自分自身が英語ビリだったな、数学は１番だったなとわかるのですね。

中村さん

親御さんにも分かりますね。成績個表とか、得点分布表で伝えますから。

発言者

それもきついね。北欧なんか、中２まで成績を出しませんからね。

中村さん

許されるなら、そうやってほしいですけどね。

発言者

出来るのですよ。実質賃金は上がるし、うまくいっているのですが、日本は何を狙っているのか、経済を駄目にしようとしているのか、そこが私には分からない。

中村さん

とても、人間教育とは言えないですよね。文科省からして「人材」という用語を使っています。

発言者

全然、言えないと思います。主体性を育てないと、起業家だって出てこないです。それを全部押しつぶしながら、「序列」と「脅し」というのでは、あまり昔と変わらないなという気がします。

加藤さん

中村さんがおっしゃったことは、生徒自身に配られる個票に、英語は何番、数学は何番、理科は何番ということが出ているということですね。

中村さん

そういう事です。

加藤さん

確かに 30 年前の旭野高校では、英語の学年上位５人とか、そういう書類が配られて、担任が教室に貼っていました。「お前 1 番だったな」ということで張り出していましたが、今そういうことは、ほとんどの高校でやられていないと思います。今や、コンピューターで簡単に個人伝票をつくることが出来ますから、「お前何番だった」と、どこの高校でもやっているので、鈍感になってしまっていますね。おっしゃる通りです。

発言者

今、鈍感と言われましたが、新聞記事で管理教育という言葉を見ると、全国に広がっていますよ。愛知県は、しょっぱなから始まっている県なので、ほとんどに知れ渡っていて、もう鈍感になっているのではないかというのが、私の意識ですね。かなり管理的になっていて、教授会や職員会議で議論しないということが当たり前になっているのではないですか。トヨタはもちろん議論しませんが、それが当たり前と思ってしまっているのは、向こうの思うつぼなのかもしれないけれども、私としてはものすごく気になってしょうがないのです。どうなのですか、生まれた時代とか受けてきた教育によって違うのですか。批判精神が無くなってきてしまうというか、そういう事がありますか？

発言者

僕がこの間出合った若者たちですが、ある人はとても自己肯定感が低いです。自分には

長所もない、その人は一旦高校に入ったのですけれども、いろいろな事情で中退して、もう一回高校に居場所を移そうとするのですが、いろいろと接している中で、全く自己肯定感がありません。面接の練習をしましょうと言って、2，3 か月前からやりましたが、自分には長所がないというのです。その人は、中学校時代に不登校ということでしたが、いろいろな他の事情もあったのかも知れませんが、自分の受けてきた人生観の中で全く自己肯定感がないのです。

もう一人は、中学校 3 年生の現役の人でした。朝 1 時間しか学校にいられないのです。朝、登校はしますが、すぐに保健室に行って、2 時間目から帰ってしまうという、そういう不登校の子です。しかし、その人が特異なのかもしれませんが、とても語学に堪能です。中国語と韓国語、それに英語、友達に日系ブラジル人の子たちもいたみたいで、ポルトガル語とか、その他フィリピンの子もいたようでスペイン語もできると言っていました。また、雑学知識が滅茶苦茶にあります。いろんなことについて、発想がとてもユニークです。でも、どうにも担任の先生と折り合いが悪く、数学の授業について行けないとかで不登校になっていました。今の偏差値教育から弾かれているのですね。中学校にまともに通えないものですから、学校の先生からもまともな対応をしてもらえなくて、面接の練習などもしてもらえなくて、何か月か前から取り敢えずやっていました。私が見聞した狭い範囲の経験ですが、いろんな教育システムに歪みがあるのではないかと思います。

発言者

日本人は自己肯定感が極めて低いと、ずっと言われていますね。さっきの「序列」と「脅し」ではないけれども、下から何番目というようなことだけが出てきたら自己肯定の仕様がないですね。それも全科目そういう事が出てきたら、どういう人間になってしまうのか、私はちょっとぞっとします。学校の成績で出てくるものが全てではなく、ごく一部です。だから、本当は、絶対視してはいけないと思うのですが、皆、不思議に思わすにやっちゃうのですかね。

中村さん

子どもたちは、初めからそういうふうにされているので当たり前だと思うかもしれないけれども、やっているのは教員なのですよね。教員が仕事として、若い人も年配者もいるだろうけれども、これでいいのだ、これが学校の教育なのだと、なっているのですね。子どもたちの間の会話でも、成績が、テストが良かったりすると「あの子、頭いいね」という言葉が出ます。「あの子、頭がいいね」というのは、テストで高い点数を取った子に対して言うのですが、本来的に人間の「頭がいい」というのは違うと思います。そういうように周りの子たちを見ている、そういう雰囲気の中で教室にいるということですね。人間の感情とか思考とかが、どんどん細っていると思うのです。

発言者

本当にそうですね。私は、前から言ったり書いたりしていますが、その基本は、教育現場の職員会議のあり方ではないかなと。最近、改めて自分が出ていた教授会で議論がなくなったというのを聞いて、それはもう絶望的だなと思ったのですが、小中高の職員会議で、こういう成績を出していいのかどうかという議論をすべきですね。民主主義の社会で、これは本当に子どものためになるということで議論の末にそうなるのだったら、あるいは、駄目ということになれば止めた方がいいと思うのですが、議論が出来なくなっている状況が、どんどん広がっている、政治の分野でもほとんど議論が見えてこないのですけれども、現場の人たちは、もう慣れ親しんできてしまっているのか、議論的な雰囲気というのは、どうなのですか。

加藤さん

議論は弱くなっていますが、コロナの問題はいろいろあって、2020 年度は前例がない年なのですよね。お分かりだと思うのですが、変更、変更、変更なのです。自分は組合の専従で休職していたので、ちょっと情報に弱いのですけれども、もしかしたら、職場の中で、どう変更していくのかということで議論が出来たかもしれません。しかし、自分の足元の豊明高校を見ていると、多分、管理職の指示待ちになっていたのかなと思います。だから、発言する人がいないわけじゃないけれども、この数字間違っていませんかとか、この実施要綱で私はこの部分でどういう動きをしたらいいですか、といったような確認などがほとんどで、「そもそも」といったような問題提起がなかなかできません。

そもそも論が職員会議で出来ないことは、昔からそうですが、じゃあ、自分のいる 6 人の理科会議でもそれが出来るかというとそうでもない、僕が言わないとそもそもの話ができないということはありますね。そこは組合員かどうかということではなくて、やっぱり議論するというと、これはいろいろなことで言われているけれども、議論をする、異議を挟む、問題提起をするというと、何か悪みたいなネット上の風潮がありますよね。それが少なからず影響しているように思います。そこは克服しなければいけないと思います。

実は今、お上は、ディベートとかプレゼンとかを、生徒にやらせようとしています。形を整えることは、奴らは得意ですが、それを本質的なものにする指導力が僕らに備わっていないのではないかと思います。自分も含めて、そこが課題だなと思うのです。もし、お上の言っているようなディベートや主体的な学びというお題目が、本当に意味のあることになれば、教員が民主的な経験を積んで行くということと表裏一体だと思いますね。

発言者

大学教員を 30 年以上やって来て、改めて思うことは、学生に主体性がないと駄目だということです。例えば、ゼミ生の教え子だけでも 700 人くらいいて、私のゼミは割と自主的に自由にやらせていたのですが、自由に何をやっても大丈夫だよといっても、あまりやらないということがあります。逆に、他のゼミにいながら私の授業を聞いてゼミに来たいという学生と未だにつながりがあり、今でもオンラインで研究会をやっていますが、そういう人はそんなに親しく付き合ったわけではないけれども、圧倒的に問題意識も高いし、退職して 10 年くらい経つけれども深いつながりがあるし、オンラインでどんどん増えてきているのですよね。だから、教育とは何なのかと改めて考えさせられていて、ゼミ生がいいとも限らないし、大学院生も他の大学から来た院生の方がよく勉強をして、下から来たのはほとんど駄目というか、教育は難しいなとつくづく思うのです。

スウェーデンでは、主体性を引き出すとよく言われます。自由がなければ基本的に駄目なので、なるべくタダにしてお金は出すけれども、口は出さない、余暇活動でもそうですが、全部自由にして主体性、何がやりたいのかを引き出す、そうするとものすごく一生懸命やるので、それをどう引き出すのかという議論をしているようですね。日本では金を出さないけど、口は出すという、そういう風潮があるので、これで本当に大丈夫なのかなと、国際比較のランクを見ると、全部下がってきていますし、GDP ですら下がってきているので、これで軍事費だけ増えたら、どうなのだろうという思いがします。今日は、いろいろ教わり大変勉強になりました。

司会

司会者から感想等を話してよろしいでしょうか。今日の報告を聞いて、改めて教育を考えさせられたのですが、教員の教育力、地域の教育力、そういったことが今求められているのではないかと、感じるわけですね。教育力という場合、教育研究活動、教文活動がど

の程度やられているのかということで、10 年前、20 年前の組合員が多かった時代にはすごく活発にやれたと思うのです。今は、学校を超えた形はもちろん、愛高教のメンバーだけでも教文活動や教研活動そのものが出来ないようになってきていて、例えば、支部教研をかつては年 2 回やっていて、ある時期までは辛うじて 1 回になり、なぜ 1 回しかできないのかというと、しんどいからと、今はそれさえもできなくなったことに、端的に表れているのではないかと思うのですよね。だから、この運動そのものも、地域の教育力、地域教育共闘みたいなことがやれるようになれば、もう少し前に進むのではないか思うのです。

数年前、全教の「教育のつどい」が名古屋であったとき、事前に各地域でミニ集会をやれと言われて、ブーブー言いながら、7 つくらいの地域でやりました。その時には愛教労さんや地域のいろいろな団体と話し合って、西三河でいうと 100 人近い人たちが集まり、名古屋出身の作家堀田あけみさんを招いて教育講演会などをやりました。それが最後になったけれども、そうした類のことが出来るようになれば、もう少し運動なんかも前に進めていけるのではないかと思うのです。

だから、この運動は、2035 年までずっと続くわけで、こちらが手を緩めれば、手を変え、品を変え、もっと露骨に行政側は攻撃をかけてくるだろうと思うので、そうした力を養っていくためには、教員組合で言えば、小難しいいろいろなこと、ウクライナのこととか、それもやらなければいけないけれども、まず教育運動、教育活動をいかにやって行くのか、いかに広げて行くのかということが、我々に問われているのかなと思っています。そういう意味で、愛高教のメンバーに強い調子で言うことはできるだけ控えて、現役のメンバーができるだけ活動しやすいようにということで遠慮しているのだけれども、そうしたことをやって行かなければいけないのではないかと再度思った次第です。

発言者

これから日本の人口もどんどん減っていく、今年は 60 万人くらい減りますね。人口が減っていく中で、外国人が 200 万を超えて増えていくのでしょうが、これに対応できる教育をやらないと、多分、日本の教育は持たないですよね。いろんな雑学があってもいいし、それをまた絞って行けばいいわけなので、そう意味で何でしょうね、肯定感が無くて、いろんな能力のある人がはじき出されて、点数の序列と脅しだけで頑張れ、日本の未来を見ろ、と言われても子どもたちには全く分からないのではないでしょうか。今日は実態が分かってよかったですが、改めてほんとにぞっとする面もありますね。

発言者

加藤さんに 2 つ質問です。自己紹介で、最初の赴任校に 8 年位、2 番目が 10 年位、現在の学校に 10 数年いらっしゃるということでした。これは加藤さんが希望して学校を移られたのでしょうか。たとえば、名古屋市の小中学校では、1 つの学校に勤務する上限、特に最初の赴任校には上限年数がある、そういうルールがありますよね。愛知県の高校の場合にも、1 つの高校に在籍できる上限みたいなものがあるのかということと、それから、他の高校に移る場合には本人が希望を出して条件が合えば、希望のところに移れる仕組みがあるのかどうか、要するに移動のルールですね、それが 1 つです。

2 つ目に、この県立高校の再編は今後 10 数年かけて行われる計画ですね。それによって当然高校の数が減っていくわけですから、1 学級当たりの生徒の数を減らさない限り教職員の数も減りますね。どのくらい教職員を減らそうとしているのか、実際に減らす場合にどういう形で減らそうとしているのか、採用を抑えていくというやり方が基本なのか、その辺のこと、教職員の定員、広く言えば働き方、労働条件にどういう影響が及ぶと予想されるのか、以上の 2 つ、お尋ねしたい。

加藤さん

小中と違って、勤務年数の上限はありません。1校だけという先生も知っています。それがまず1つ目の答えです。ただ、目安はありまして、新任6年、転勤10年となっています。私の場合は、7年目・8年目に愛高教の執行委員などをやった関係で、動かすなといったので、ここは止まっています。その頃に結婚して東海市に引っ越したものですから、次には第1希望のところに行きました。そこで目安の10年ですから異動して、今16年いるのは、その間に、愛高教尾東支部の支部長を2010年と2015，6年かな、やったり、愛高教の役員もやったりしたので、転勤のタイミングを失したりして、今に至っています。

おっしゃるように、統廃合で学校を減らしていけば、我々は少人数学級にしろと言っていますけれども、学級を増やさなければ教職員定数が減らされるということになり、もう、いらんということになって首をどんどん切るということになってはいけないということで運動しなければいけないと決意しているところです。でも、この間、文科省が調査をしたように、教師不足というのは全国、愛知県にもあるのです。事実の問題として教師不足があります。学校教育に穴が空くことがあるのですから、それは一刻も早く解消させなければいけない、当然、我々としては35人学級、30人学級を展望して必要な教師を必ずつけろという運動をしていかなければいけないと思っています。

発言者

話が戻ってしまうかもしれませんが、この再編問題に関して、運動として、革新県政の会の人ともメールで連絡したのですけれども、その他の関係者からも県知事選の争点にしていかなければいけないねという話を聞きました。3月15日ですか、革新県政の会の学習交流会みたいなものがあり、愛高教の副委員長の方も出て、報告・発言されます。取り敢えず、教育予算が最低だから、愛知県の教育予算をもっと拡充しろということと、少人数学級を進めて人減らしを止めるということが基本的な対案かなと思いますが、何かそうしたことで、県知事選の争点にもしていくというような、そういう大きな戦略的なことがあればお聞かせください。

司会

最後のまとめのところで話をしてもらうということで、予定時間が来ているので、発言されていない方、いかがですか。

発言者

ほとんど、中学校側のことは中村さんが言われていたので、ある程度分かるのですが、高校側のことが分からなかったので、再編問題で海翔高校以外のこともよく分からなかったのですが、加藤さんのお話で全体像が見えてきたかなと思いながら、資料を見させていただきました。商業高校の格付けとか、やりたい放題で、教育を何だと思っているのだろうかと、勝手に案をつくっていることもビックリした次第です。私としては、何か迷路に入ってしまって分からないので、できればシンプルに高校に行きたい子は、皆、行くことできると、内なる多様化を言われたレポートがありましたよね、すべての子どもたちに個性を活かせるようなコース、そんなことが出来るわけがないので、1クラスにいろいろな子がいるのは当然という非常にシンプルなことを目指すべきかなと、そのような結論に行きつきました。

司会

最後に御二方にお話ししてもらいましょうかね。回答等も含めて、では、加藤さん。

加藤さん

有難うございました。今、画面に出ている坂口さんのレポートは愛高教の本部にありま

す。言っていただけば、お分けすることができます。

司会

10 部くらい取りに行きます。

加藤さん

私が印象的だったのは、今日のような討論が愛高教の中でもなかなか出来ていない、学年でもできていない、教科でも出来ていない、職員会議でもできていない、そこら辺は本当に問題だと思いますね。僕らって、結局、そこに立ち返らなければいけない、コロナ禍以前は、こういう問題も飲みながら、オジサン的で古いと言われるかもしれませんが、飲まなくてもいいので、こういう話をしなければいけないなとつくづく感じました。それが 1 点です。もう 1 つは運動論です。おっしゃる通り、大いに県知事選挙の争点にしなければいけないし、何度も言っていますけれども、間違いなくこれで終わりではないのです。それは、尾張西部があの 3 つで終わりでないということかもしれない、本当に予想できないのですが、間違いなく知事選までに次の一手が出て来ると思っています。ですから、そこは頑張らなければいけないし、地元の方が海翔高校を守る会を立ち上げてくれたのは本当に有難いと思っています。一宮でも稲沢でも続けていけるようにしていければと思います。今日は有難うございました。

司会

中村さん、お願いします。

中村さん

有難うございました。高校側の立場のお話を久しぶりに聞かせていただきました。加藤さんの報告の中に「農業高校は公立しかないよ」という言葉がありました。それから特別支援学校も、山間へき地の高校も、みんな公立ですよね。統廃合でつぶされようとしている学校を含めて、それらはみんな教育の「周辺部」であり「基盤部」なのです。やはり、この愛知の公教育をどこが担ってどこが頑張っているのかという視点というか、自覚というか、それが大事かなと思うのです。やっぱり、誰もが学び、誰もが豊かになっていく愛知の教育を目指していくために何をすべきかと。今日の交流で、まず誰が声を上げ、どういう人たちと手を結ぶのかということをつくづく考えさせられました。また、私の所属する愛教労は小さな組合ですが、20 代、30 代の若い組合員もいます。県内のそれぞれの地域で輪を広げて行きたい、若い人たちに発破をかけていきたいなと思っています。

司会

有難うございました。今回の問題はこれで解決することではなく、引き続き、お互いに協力していかなければいけない問題だということを確認して、本日の研究会の終了とします。

（＊以上、質疑応答等の時間約 91 分）

報告資料（31 頁～45 頁）、コメント資料（46 頁～51 頁に掲載）

報告資料

2022 年 3 月 12 日

愛知労働問題研究会　第 23 回定例研究会資料（労働会館本館）

愛知の公立高校再編の方向と、私たちの対抗軸

愛知県高等学校教職員組合　加藤　聡也（としや）

◆はじめに（自己紹介）

1963 年名古屋市生まれ

1988 年 4 月　旭野高等学校（教諭・理科・物理）　25 歳

←1972 年創立（尾張旭市）

1990/4～1993/3　初の担任で 3 年間持ち上がり

1994/4～1996/3　愛高教執行委員（尾東支部）

1996 年 4 月　東海商業高等学校　33 歳

←1971 年創立(東海市)

1996/4～1998/3　2 年、3 年担任

1999/4～2004/3　生徒会主任

2004/4～2006/3　総務主任

2006 年 4 月　豊明高等学校　43 歳

←1971 年創立(豊明市)

2007,2008,2009,2011,2012　担任

2013/4～2019/3　学年主任（2 巡）

2019/4～　愛高教副委員長、委員長（非専従）

◆愛高教紹介　県立高校と障害児学校の教職員を組織しています。1970 年代には 2 度のストライキ闘争を闘いました。80 年代からは、憲法にもとづく教育の推進、平和や民主主義の擁護、貧困や格差の拡大から子どもと教育を守るとりくみ、教職員の賃金・労働条件の改善や、国民生活の改善などのとりくみをすすめています。また教育研究活動、教育条件整備の運動、学校づくりなどのとりくみを行っています。1991 年の全教結成に参画。

1　現在起こっていること

2021 年 12 月 22 日に県教委は「県立高等学校再編将来構想　～中学校卒業者数の急減を見据えた県立高等学校の一層の魅力化・特色化と再編～」（以下「構想」）を決定。

→全日制への進学率の低下や欠員の急増

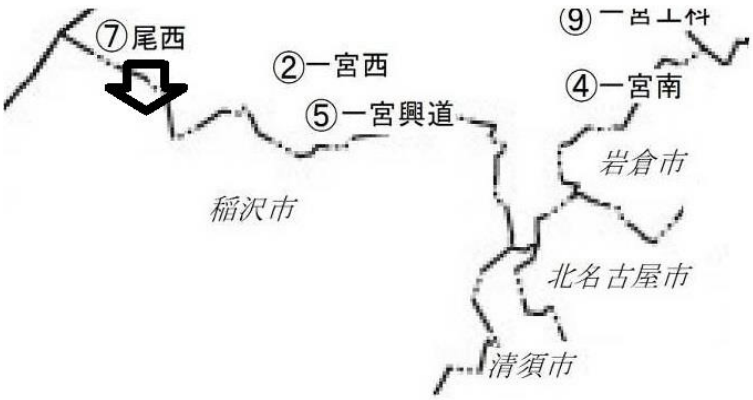
→中学校卒業者数は、2035 年度には約 13,000 人減少する

→新たなタイプの学校を用意するなど、中学生が学びたいと思う学校づくりを進める

→35 年度まで「具体化検討委員会」を継続設置し「具体的な取組を順次公表」する

(1) 尾張西部の統廃合

（ア）稲沢・一宮地区　2023 年度に稲沢・稲沢東・尾西の 3 校を統合した「新校」を稲沢校地に開校する。稲沢東、尾西は 2023 年度より募集停止。農業科（4 学級）、普通科（3 学級）、総合選択制（互いの学科の科目が一部履修可能）を実施。



（イ）津島・弥富地区　津島北と海翔を統合し、<u>2025 年度</u>に 2 校を統合した「新校」を津島北校地に開校する。海翔（普通科）は 2023 年度より募集停止。普通科(２学級)、商業科(３学級)、福祉科(１学級)。

福祉科は 2024 年度までは海翔で募集。25 年度から津島北で福祉科の募集を開始。それと同時に海翔･福祉科の生徒は津島北へ移る。

伝統ある 2 校（元稲沢農学校、元津島高等女学校）を残し、ました。実学志向で地域の福祉科を残したとも言えます。

しかしこの「構想」の下、受検生は 2023、24 年度に海翔・福祉科を志望できるでしょうか。入学しても 2(1)年後に 13 km北の津島北に通学先を変えねばなりません。

何より重大なのは南部地域の県立普通科がなくなることです。海翔には名古屋市南部や三重県桑名郡木曽岬町からも通学しています。こうした生徒たちの学ぶ権利は保障されねばなりません。

海翔は蟹江高校と海南高校の統廃合によって 2005 年に設立されました。その海翔が再び統廃合でなくなります。

海翔は「困難校」とされながらも、さまざまな校内の取り組みで学校の認知度をあげようとしています。そうした取り組みを無にするような提案と言わざるを得ません。

(2)新しいタイプの高校の設置

以下の２校を改編するとしています。

（ア）犬山南

・『ＤＸ人材育成』と『起業家的人材育成』を柱とした、生徒の新たなチャレンジを全面的に支える学校

※校長メッセージより「大学や企業、あるいは地域の変化を見据えて本校の在り方を大きく変えます。令和5年度の入学生からですが、来年度から少しずつ変えていくことが出てきます。さらに、みなさんが卒業後、後輩を指導するために学校に来てもらったり、あるいは大学や職場に生徒を派遣し、指導してもらったりすることもあり得ます」 e-sports などか？

・基礎・基本の定着や学び直しを支援する。新たな学校の運営を支える民間企業、地元自治体との連携・外部委託を進める。５学級または４学級を想定する。

（イ）御津

・外国にルーツのある生徒や特別な支援が必要な生徒などを受け入れるインクルーシブな学校

・日本語習得や不登校の状況に応じた少人数教育

・全日制課程学年制から全日制単位制への改編と、昼間定時制課程の併置

・新たな学校の運営を支える民間企業、地元自治体との連携・外部委託

全日制は３学級、昼間定時制は、新たな学科を設置（20 名程度）し、日本語が困難な生徒や不登校生徒を受け入れる。

この２校の計画にみられる意図は、高校生を選別し「優秀な層」とそうではない層に分け、予算の配分にも差をつけていく「新自由主義」的発想です。

(3)実践的な商業教育へのリニューアル

愛知商、岡崎商、豊橋商の 3 校を「グローバルビジネス科」「会計ビジネス科」などに再編します。この 3 校は「高度な専門性を身に付ける学校」として中核校と位置付けられました。事実上のトップ 3 校です。中位に 6 校（一宮商、半田商、春日井商、古知野、津島北、**東海樟風**※東海商を校名変更）を配置します。最下層に中川商「キャリアビジネス科」。本県初の職業学科全日制単位制の新設です。上記の犬山南・御津の改編と共通する発想です。

こうした再編の理由付けとして、「構想」では「事務職へ就職するために商業科へ進学する必要性が、中学生や保護者に分かりにくくなっている」「職業人としてのマナーを身に付けることを重視した指導を行ってきたが、そうした指導が中学生に受け入れられにくくなっている」としています。かつての指導体制の限界を自ら認めた記述とも言えます。「システム開発や Web デザインなど、ICT 関連の分野を学びたいという生徒のニーズは強くなる」とあり、こうした企業の求める即戦力育成を柱としたい方向がうかがえます。さらに、「企業財務に関わる専門的な知識を持つ人材の育成」ともあります。

こうした「高度」な学習が果たして高校で必要なのでしょうか。専門高校は職業技術のみを身につける場ではありません。普通科と共通する高校生としての成長・発達の場です。その際、企業・産業界を含む社会のあり方を見つめ、批判的な精神を身につけることも必要です。企業・産業界の望む通りの「人材」育成は、公教育の役割ではありません。

「本県（公私立）の商業科生徒数は全国 1 位の 12,494 人。2 位は埼玉県 8,194 人。東京都は 6,885 人で 5 位」などとわざわざ記載しています。本県の商業科は多すぎるとも読めます。

「構想」で触れられていない商業科（木曽川、犬山、碧南、国府、成章）の今後も心配されます。

２　愛知の公立高校の歴史を概観

(1)新制高校の時代

1949 年度から小学区制の新制高校がスタートしました。現在 87 歳よりも若い方でしょうか。

(2)公立優位？の時代

1956 年度から小学区制を廃止し、入学者選抜が行われることとなりました。受験戦争は徐々に激化していきます。愛知独特の風土により「公立優位」と言われる体制が確立されていきます。1960 年代から 80 年代後半まで。1973 年度から「学校群制度」（～1988 年度）でした。

現在 50 歳～80 歳あたりの方の高校時代です。

(3)「困難校」の出現

学校群を廃止し 1989 年度から始まった複合選抜制度（2 校希望・複数受験・大学区制）にともない様相が変化しました。学校間格差は徐々に序列化・固定化され、各校の類型化が進行します。教育「困難校」と呼ばれる公立高校が周辺地域に出現したのも 1990 年ごろからです。

現在 48 歳以下が「複合選抜世代」です。

(4)高校「多様化」の時代

1999 年、岩倉高校商業科に県内初の総合学科を設置。これ以降、総合学科、SSH、昼間定時制、コース制などの多様化路線が進行します。現在 20 代、30 代の方の高校時代となります。

(5)新高校入試制度の時代

現中 2 から「新入試」がスタート。公立高校のあり方も、変化していくと予想されます。詳しくは 6 章で述べます。

３　この間の県教委の政策をどう見るか

(1)県教委の「構想」が示す **5 つのポイント**に即して

ポイント 1：中学生が学びたいと思える学校づくり

「これまでの県立高校の魅力ある取組を継承しながら、学科改編、あらたな時代にふさわしい校名への変更、教育課程の見直し、入試制度改革など、さらなる魅力化を図る」。

→「工科」高校、2023 高校入試改革

→「専門学校化」という発想は、子どもたちの真のニーズではないのではないか。

ポイント 2：生徒が主体的に学べる学校づくり

「最近では、広域通信制高校に進学しながら、芸能やスポーツ、起業など、自らの夢の実現を追求するという、これまでとは異なる学びのスタイルを求める生徒」「一部の広域通信制高校では、教育の質が問題となっている（「構想」p.26)」

→少なくないフィギュアスケート選手が学ぶ「角川 N 高校」などを指しています。N 高校の評価は別の機会に譲りたいですが、多くの論点がありそうです。

ポイント 3：時代の変化に対応した、新しいタイプの学校づくり

「情報技術の進展、生徒のニーズの多様化などにより、今までの課程・学科の枠組みを超えた対応も必要」「生徒のやる気を後押しする新しい普通科の枠組への改編」。

→コース制や新犬山南高校などを指していると思われますが、コース制は必ずしもうまくはいっていません。

ポイント 4：地域の期待に応える学校づくり

→地域の活性化につながる「期待」には、応える必要があるでしょう。

ポイント 5：外部の専門機関と連携した、持続可能な教育体制を構築

「民間の活力を導入するなど、常に社会の変化に対応できる体制を構築」「大学や企業、ＮＰＯなど、外部の専門機関と連携した取組を積極的に進め、常にアップデート」。

→昨今の ICT 教育の旗振りは、民間業者に学校を開放する意図があります。十分な警戒が必要です。

(2)計画進学率 93.0%を、「進学見込率」と名を変え 91.5%に

「2021 年度の公立実績は、設定（公 66.7%、私 33.3%）を下回る 65.4%」「公立の欠員は過去最多の 2,669 人、私立の欠員は過去最少の 181 人」とされ、さらに 9 月時点の「(全日制)進学希望率」が示されています。その 2016 年度からの推移は、93.9%→93.7%→93.6%→93.2%→92.8%→92.6%と、この 6 年間で ▲1.3%となってはいます。若干の低下はあるにせよ約 93%の生徒は 9 月時点で全日制を志望しています。秋から冬にかけての「指導」によって、「実績進学率」が低下したからといって 91.5%に引き下げることは許されるのでしょうか。計画進学率は憲法 26 条「教育を受ける権利」を鑑みれば、高めるべく努めるものです。

(3)「特色ある」学校づくりの実際

ここからは、愛高教の「**提言　愛知の高校はどこに向かうのか　県立高校の『魅力化・特色化』を検証する－私たちの求める多様化とは－**」（2022 年 1 月）を引用しながら述べていきます。

（ア）スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業

・2021 年度現在、**県立 8 校**（明和・旭丘・一宮・時習館・岡崎・刈谷・豊田西・半田）と、市立向陽、名城大附高の合計 10 校です。

・英豪米などへの海外研修。英語による校内発表会。外部講師の招へい。

・2022 年度、瑞陵・岡崎北に理数科を新設。春日井には理数コースが誕生。

→大量の予算を一部の学校に投入し競わせて競争に勝ち抜く「人材」を育てることは、単なる「エリート教育」にすぎず本来の教育ではありません。

（イ）「国際理解教育」

2003 年の「目標」	2013 年の「結果」
1）高卒で、英検　準 2 ～2 級程度	準 2 級　高校生合格率 34%＝高校生取得率 3% 2 級　　高校生合格率 24%=高校生取得率 1.5%
2）高校生の留学　年間 1 万人	3 か月以上の留学は、3000 人～4000 人
3) スーパーイングリッシュハイスクールの推進	県立では、千種と尾北を指定

1）と 2）は、その後も達成されておらず、目標設定の無謀さを感じずにはいられません。

本来、国際理解教育とは、英語という一教科を強化する教育ではなく、SDGs をはじめ地球規模の環境、軍縮、平和、人権など多種多様なことを学ぶ教育です。ところが、本来、社会や理科の時間に学ぶべき専門的な内容を原語が英語ということで、英語教員が担当している現状があります。

（ウ）「僻地校」（特に、奥三河地域）

2007 年度末　田口稲武校舎、新城東本郷校舎　閉校

2010 年度末　鳳来寺閉校、　作手の校舎化

2020 年度末　新城東と新城が閉校し、新たに新城有教館に。

この地域にあった**6 校 1 校舎は、20 年を経て 2 校 1 校舎のみ**となりました。足助も、2021 年度より 1 クラス減 2 クラス募集となったものの、それでも大幅な欠員があります。

田口は 2004 年度より郡内 3 中学と、県内初となる連携型中高一貫教育を開始。

作手校舎も作手中と 2010 年度より中高一貫教育を開始。しかし入学生徒数増に結びついていません。

「構想」では、山間部 1 校 1 校舎（田口、作手校舎)、中山間部 2 校（足助、加茂丘)、半島部 2 校（内海、福江）の名を挙げて学校の必要性については言及しています。この地域の高校のあり方自体を認め、整備することこそが早急に求められます。

(エ)普通科コース制

・2022 年度の募集は、19 種のコースが 28 校に

情報活用（安城南)、**情報ビジネス**（尾西※・衣台・一色・東浦）

国際コミュニケーション（日進・阿久比)、**国際理解**（常滑・津島・豊橋東・一宮西・安城東・中村）

福祉実践（福江・一宮北)、**福祉探究**（一宮北)、**スポーツ**（海翔※）

環境防災（海翔※)、**自然探究**（田口)、**人間環境**（日進)、**自然科学**（加茂丘）

美術（東郷)、**医療・看護**（豊田、長久手)、**教育**（半田東・豊橋南)、**子ども発達**（武豊）

観光ビジネス（福江)、**創造表現**（名古屋西)、**企業連携**（守山・幸田）

理数（春日井）　　（※県教委は、2023 年度からの**募集停止を発表**）

※豊橋南の教育コースの例　「小学校運動会体験活動」

※名古屋西の創造表現コースの例　「ダンス表現」や「文章表現」の授業に、宝塚歌劇団出身シンガーソングライター、芥川賞受賞作家、新聞記者などを特別講師。**演劇経験者が学級担任**。

(オ)総合学科

・2022 年度の募集は県立 13 校（名古屋 2　尾張 4　三河 7）

※知多翔洋の例

2005 年に総合学科へ移行して数年間は低迷･混乱の時期でした。その後、総合学科としての特色を生かした魅力ある学校をめざす取り組みが本格的に進められ、状況は大きく改善されました。

ポイントは、①進学実績を上げるなどの普通科的な発想を一旦捨て、新鮮な驚きや感動、わくわくするような期待感がもてる総合学科ならではの自由で柔軟な楽しい授業を展開②総合学科推進部という「学校づくり」を専門とする分掌を立ち上げたこと③「アラカルト方式」の科目選択をやめ、系統にあわせて「推奨パターン」を設定しています。

※瀬戸北総合の例

1984 年全日制普通科として開校しました。その後、2004 年の福祉実践コース開設を経て、2009 年に総合学科に改編し総合学科 12 年目となっています。2021 年には、県立工業高校の校名変更と学科改編を受け、前瀬戸窯業の商業科が移行する形で「ビジネス系列」が新設されました。2022 年 4 月より第 2 学年のビジネス系列の生徒向けに商業科の専門科目の授業が展開されます。

(カ)定時制
・日本語を母語としない生徒が増加しています。国籍は多岐にわたります（中国・フィリピン・ブラジル、ネパール、パキスタン、ミャンマー、ベトナム…)。生徒の中には母語も日本語も上手く使えない、いわゆる「ダブルリミテッド」と呼ばれる者がいます。
・いわゆる発達障がいといった先天的な凸凹をもつ生徒も増加しています。定時制課程では授業で５～６人くらいの展開をして、一人一人の学力にあった指導が求められています。
　このような生徒たちは、異なる文化を持っており、互いにぶつかりあいながらも、多様な人同士がともに暮らしていく姿を私たちに見せてくれます。
・どんなルーツや家庭環境や発達課題があっても、学校という場で生徒が学ぶことにより、多様な道が拓けるはずです。

４　「再編」が危惧される地域

「構想」は全県を地区分けし、人口動態などを分析しています。特に目を引くのは以下の 3 地域です。

(1) 尾張東部地区
「この地区は普通科の割合が高く、日進市、東郷町、豊明市の地域には、専門学科がない」「名古屋市へ進学する生徒の割合が高く、私立志向も高く」「他地区に比べて欠員の割合が急増 10.7%（全県 7.0%)」「高蔵寺ニュータウンと瀬戸市の菱野団地の高齢化」「人口動態を踏まえ、新たな地域ニーズを踏まえた各校の役割を検討する必要がある」。他地区との書きぶりを比較すると、統廃合の次の標的とされる危険が大きいです。

(2)尾張西部地区
「弥富市・海部郡は、近鉄・ＪＲ線による名古屋方面への利便性が高く、名古屋市へ進学する生徒の割合が高い」「11 校中９校で欠員が生じ、他地区に比べて募集人員に対する欠員の割合が多い」「欠員数 379 名で 16.3%（全県は 7.0%)」「この地区における学校の適正配置について、早期に検討する必要がある」。これらの強い記載を受けて、前述した「尾西・稲沢・稲沢東」「海翔、津島北」の統廃合計画となったと思われます。

(3) 東三河地区
「他地区に比べて中学校卒業者数の減少の進行が早く、１校当たり平均募集学級数は 5.35 学級と、小規模化が進んでいる」「半島部や山間部は、地元自治体や関係者との継続的な協議が必要」「進学動向を踏まえた、地区全体における高校の在り方の検討が必要」などと他地区に比べても具体的な記載が多くなっています。何らかの検討は必要と認識しているようです。
　また、「東三河地区から西三河地区への進学者数　2021 年度：503 人」とわざわざ特記していることも気になります。「西三に通える」という理屈での都市部の統廃合が懸念されます。

５　私たちがめざす高校教育は

(1)春日井西分会、坂口氏のレポートより

春日井西は、多様な進路を選択する生徒がいる普通科高校です。多様な生徒に対応するため、進路指導室は昼休みや放課後になると生徒で溢れます。年度当初は就職希望者がやってきます。7 月からは毎日、求人票を眺めたり、面接練習をしたり、夏休み中はおそらく就職希望者がもっとも多くの日数を学校で過ごすことになります。専門学校に進学を希望する生徒も数十人います。そんな彼らには将来の職業につながりそうにない、いわゆるカルチャースクール的な専門学校には向かわないよう指導しますが、その脇には就職に向けて職業に真摯に向き合う生徒たちが居るわけです。何人かは考えを改めます。夏休みの終わりごろ、「総合型選抜」いわゆるＡＯ入試の出願がはじまろうとすると、そういう生徒が進路室にやって来て目にするのは、面接指導がかなり完成した就職希望者が、教員とかなり高度なやり取りをしている姿です。そして「総合型選抜」や「学校推薦型選抜」での受験を希望する生徒たちは、就職指導を受けている生徒を横目で見ながら、面接・小論文・基礎学力テストに向けて真摯に向き合わねばと覚悟をします。就職の内定が出るころ、内定をもらった生徒たちが「総合型選抜」や「学校推薦型選抜」の生徒の面接指導をやってくれます。そして「総合型選抜」や「学校推薦型選抜」で受験に臨む生徒の面接練習が仕上がってくる頃、共通テストや一般入試の生徒が顔を出すようになります。そこで推薦入試で受験に向かう生徒は決して「楽な受験」ではないことを目撃し、自らもしっかり勉強せねばと意識し、推薦入試が終わるころには進路指導室と隣の進路資料室は、毎日数名の一般入試の生徒が通う、自習室と化します。わいわいやって来て勉強します。これが 3 月、場合によっては卒業式後まで続きます。「進路室は青春の 1 ページ」なんていう卒業生もいます。

春日井西は、普通の普通科です。多様な進路希望を持つ生徒たちが、多様性を受け入れて、個別具体的で多様な指導をしてくれる教員と、それぞれ互いに刺激を受けながら共に多様な進路実現に向けてがんばっています。それぞれの学校を「特色化」し、それぞれの箱に「特色ある生徒」を押し込めるのではなく、普通の普通科高校が、そこにやって来る多様な生徒に多様な選択肢を保障する「内なる多様化」こそが、今、求められているのではないでしょうか。

「内なる多様化」実現のため必要なのは「特色化」でも「魅力化」でも、入試制度を改変することでもありません。私たち愛高教が求め続けてきた少人数学級と教員定数増こそが多様性を尊重する高等学校の第一歩となります。

(2)半田農業分会、森川氏のレポートより

「県が手を出そうとしているのがスマート農業。ドローンなどに高額をつぎ込みます。しかし、疑問が沸いて来ます。農業の生徒は、本当にそれを望んでいるのだろうか。生徒がやりたいことは、花の種をまいたり、じゃがいもを植えたりその花が咲いたり、芋堀りすることが楽しいのです」

「農業高校には、戦後 70 年継続してきた行事があります。農業鑑定、意見発表、プロジェクト発表など、農業高校生すべてがとりくみます」

「一校あたり、約 3000 万円の収入。農業高生は、夏の炎天下でも冬の吹雪く中でも、圃場で実習。彼らが作り上げた生産物が大きな生産性となっていく。このことをもっと多くの人に知っ

てほしい。地域の農業を守り、地域の特産物を保護する機能もあります」
「就職した時、会社の方々からとても可愛がられています。暑い日も寒い日も働くということが、何かしら身に付いているのでしょう」
「愛知の農業高校を絶対に失くしてはいけない。そこには、便利さと豊かさを追求し過ぎた今の日本が、失くしかけている大切なものが残っています」

(3)杏和分会、後藤氏のレポートより

福祉科の中でも「介護福祉士の養成校」として位置づけられる学校（宝陵など）には、多くの課題があります。

社会福祉士及び介護福祉士法は 2007 年に改正され、介護福祉士養成カリキュラムが大きく変更されました。34 単位だった必要単位数が 52 単位へと大幅に増加し、また教員要件の高度化・施設設備の充実等が求められたことから、整備できない全国の高等学校の中には、介護福祉士養成から撤退を余儀なくされ、高等学校における介護人材の養成数が大幅に減少することとなりました。

現在、県内の「介護福祉士の養成校」には、教員要件を満たす福祉科教諭は一桁しかいません。この教員が、上記の「介護福祉士の養成校」には必ず配置されなければならず、人事異動にも困難をきたしています。(注：総合学科の福祉コースであれば、この制約はない)

カリキュラムの要件も厳しく、分単位の授業時間や福祉施設での実習時間（13 単位 455 時間）が求められます。近年、高校福祉科に介護福祉士国家試験資格を取得するために入学したなどの明確な入学動機を持つ者は、減少傾向にあり、40 人の入学定員を満たせていない学校が複数あります。加えて、高校福祉科の教育内容、指導方法は、在籍生徒の能力や理解力と求められる到達点が高すぎる、ついていけないという点で合致しておらず、そのことにより授業に興味がわかない、授業内容がわからないなどの学業不適応者をもたらしています。その結果、修学継続困難な状況に陥り、残念ながら転学・中退する生徒も何人もみられます。

(4)千種分会　土本氏のレポートより

SSH の指定を受けるのは、ごく少数の進学校です。少数の生徒だけが競争の激しいグローバル社会に勝ち抜いていけばよいというわけではありません。また SSH 指定校も「中間評価」という厳しい競争にさらされています。大量の予算を一部の学校に投入し競わせて競争に勝ち抜く「人材」を育てることは、単なる「エリート教育」にすぎず本来の教育ではありません。多くの人が喫緊の問題と認識するようになった「地球温暖化」はグローバル化がもたらした問題で、誰もが考えなければいけない問題でしょう。

2014 年 4 月、経団連は「次代を担う人材育成に向けて求められる教育改革」を発表しました。初等中等教育について、(1)高校教育の再構築と質保証、(2)理数系教育、ICT 教育の推進、(3)グローバル化教育と日本人としてのアイデンティティの育成、道徳教育の充実、(4)英語教育の抜本的改革、(5) 企業人の学校教育への参加の 5 点について提言しています。また、「天然資源に乏しいわが国が、急速な少子高齢化や新興市場国とのグローバル競争が激化する中で、持続的な経済成長を維持するためには、既成概念に捉われずイノベーションを起こせる人材や、国際ビジネスの現場で活躍できる人材の育成が急務となっている。次代を担う人材の育成こそが

日本の最も重要な成長戦略であり、産官学が連携して取り組む必要がある」とも提言しています。これらは、新学習指導要領や「あいちの教育ビジョン 2025」と見事に重なっています。

教育基本法の第１条に「教育は、人格の完成をめざし」とあります。私たち教職員は、日々の授業、文化祭・体育大会・修学旅行などの学校行事、部活動などを通して、児童・生徒の人格の完成をめざしています。「人材の育成」といった企業側が求める狭い目的に取り込まれてはいけない、ということを私たちは自覚する必要があります。

６　新入試（2023 年度）の概要

(1) 一般入試　2/10(13)出願、2/22 学力検査（1 回）、面接 2/24,2/27

→現行の 3 月上旬の入試から 2 週間ほど早くなります。中学校からは「3 学期がなくなる」との声が出されてます。

・Ａグループ、Ｂグループの高校から１校ずつ、計２校まで志願できる。

・学力検査は第１志望校で受検します。２校に志願した場合は、学力検査の成績を第１志望校と第２志望校の両方で用いて校内順位を決定。また同一の採点基準とするためマークシート式にします。

・面接を実施するかどうかは、各高校が決定します。

・校内順位の決定方式は　3 方式から 5 方式に増加

Ⅰ 評定（90）＋ 学検得点（110）

Ⅱ 評定× 1.5(135）＋ 学検得点（110）

Ⅲ 評定（90）＋ 学検得点× 1.5（165）

Ⅳ 評定×２（180）＋学検得点（110）

Ⅴ 評定（90）＋ 学検得点×２（220）　　※Ⅳ，Ⅴの方式が新。

(2)推薦選抜 2/6　（一般選抜と分離する形に戻しました）

〇普通科　募集人員の 10～15%。ただし全日制単位制（守山、幸田）は 30～45%

〇専門学科・総合学科　募集人員の 30～45%

●面接＋調査書

(3)特色選抜（新設）2/6　（推薦選抜と同日）

●一部の高校・学科で実施。

(a) 農業、工業、商業、水産、家庭、看護および福祉に関する学科

(b)理数、体育、外国語、国際教養に関する学科、総合学科および コースを設置する普通科・特色ある教育課程を有する普通科

(c) 地域に根差し、地域貢献を特色とする高等学校

●募集人員の 20%程度までを上限に、各高校が「何人程度まで」と具体的な人数の枠を設ける。推薦の定員枠とは別に定める。

●面接＋（作文、基礎学力検査、プレゼンテーション、実技）

「＋1」は、高校ごとに異なる。

(4)ウェブ出願を 2024 入試から導入の予定

(5)課題

大学区制には手をつけず、群・グループも変更なし。

愛知県立高校　「多様化」の進行　（略年表）

年	国	愛知県	各校
1994 (H6)	初の総合学科が、筑波大附坂戸高、三重県立木本高など全国7校に設置		
1999			岩倉高校に県内初の総合学科を設置。（2001年岩倉総合高に校名変更）
2002	SSH事業開始		
2003			蒲郡高　総合学科に
2004			鶴城丘（旧西尾実業）総合学科に
2005			祖父江と平和が統合→杏和（総合）開校
(H17)			知多と知多東　→知多翔洋（総合）開校
2006	第一次安倍内閣発足		常滑北と常滑　→新常滑　開校
(H18)	新教育基本法成立・施行		
2007 (H19)		「あいちの教育に関するアクションプラン」策定	南陽、豊田東　総合学科に
2008			岡崎東　総合学科に
2009 (H21)	鳩山内閣発足		瀬戸北に総合学科を設置（2011年瀬戸北総合に校名変更）
2011 (H23)		「あいちの教育に関するアクションプランⅡ」策定	
2012	第二次安倍内閣発足		
2013	自民党「成長戦略に資するグローバル人材育成部会提言」	スーパーイングリッシュハブスクール事業が開始	古知野に観光ビジネスコースを新設
(H25)	教育再生実行会議　発足		
2014	経団連「時代を担う人材育成に向けて求められる教育改革」→達成度テストを提言	県立高等学校将来ビジョン検討会議　開始	SGH（旭丘）
(H26)	中教審「初等中等教育における教育課程の基準のあり方」を諮問→指導要領改訂につなげる	技の探究Ⅱ（工業科の生徒が、協力企業と14日間の講座を受講）6企業、9校、47名	
		クラフトマンⅡ（産業界のニーズをふまえた実践的な技術・技能の習得。協力企業と10日間の技能実習）52企業、17校、127名	
		インターンシップやボランティア活動の単位認定が13校に	

2015		「県立高等学校教育推進基本計画（高等学校将来ビジョン）」策定	SGH（時習館）
(H27)		普通科における職業科目の設置が30校に	環境防災コース（海翔）
2016 (H28)	経団連「今後の教育改革に関する基本的考え方」→高等学校基礎学力テストの導入を提言	県立高等学校教育推進実施計画（第1期）	外国人生徒等選抜の拡大（中川商、東浦、豊田工、安城南、豊川工）
	18歳選挙権実現		ニーズを踏まえた学科改編 半田農（農業科学、施設園芸） 安城農林（フラワーサイエンス） 新城（園芸デザイン、食農サイエンス）→有教館へ
	文科省「高大接続システム改革」最終報告　→「学びの基礎診断」の導入を		愛工の募集停止、愛知総合工科の開校
	中教審答申　学習指導要領改訂の方向性　→カリキュラム・マネジメント、アクティブ・ラーニング等		
2017	小・中学校学習指導要領案	公立入試　推薦と一般の合体。	二部制単位制の城北つばさ高開校
(H29)			国際理解コース（一宮西、刈谷北）
			ニーズを踏まえた学科改編 瀬戸窯（新素材、工芸デザイン） 小牧工（航空産業） 名南工（資源エネルギー）
			松平、佐屋がライフコーディネート科
			情報活用コースの募集停止（犬山、幸田、尾西）
			情報ビジネスコース（尾西、守山）
2018	文科省「Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる」報告書	あいちスーパーイングリッシュハブスクール事業（コア4校・ハブ9校）	緑丘商が、緑丘高（総合学科）に
(H30)	改訂高等学校学習指導要領		国際理解コース（安城東）
			情報活用コースの募集停止（守山、一色、衣台）
			教育コース（半田東、豊橋南）
			医療看護コース（長久手、豊田）

2019	中教審「新しい時代の初等中等教育の在り方について（諮問）」		新城有教館高（総合学科）開校
(H31)			知立が、総合学科に
(R1)			国際理解コース（中村）
			あいちグローバルハイスクール（旭丘）
2020	文科省方針　高校普通科の再編 →「普通科」「学際融合学科」「地域探究学科」	県立高等学校教育推進実施計画（第2期）	外国人生徒等選抜の拡大（岩倉総合、知立、豊橋西）
(R2)		商業科を3つのタイプに整理	豊橋西高　総合学科に
			あつみ次世代農業創出プロジェクト（渥美農）
			スマート林業担い手育成事業（田口）など
	菅　内閣発足		5年一貫教育の充実、グローバル介護人材育成事業、高大連携介護力スキルアップ事業（宝陵、高浜など）
			あいちグローバルハイスクール（時習館）
2021	中教審答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して	あいちの教育ビジョン2025策定	瀬戸窯・総合ビジネス　募集停止
(R3)		4/1工業高校の名称変更	
		工科高校に生活コースが新設	→瀬戸北総合にビジネス系が移管
		6/21教育長「県立高校の再編将来構想を年内に取りまとめ」の答弁	
	10/4 岸田内閣発足	「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業（COREハイスクール・ネットワーク構想）」の6高採択	内海、加茂丘、足助、福江、田口、新城有教館作手
	11/10　第二次岸田内閣発足	11/8「県立高等学校再編将来構想（案）～中学校卒業者数の急減を見据えた県立高等学校の一層の魅力化・特色化と再編～」を発表 11/9　計画進学率93%を「進学見込率」と名称を変え91.5%に引き下げ 11/17 パンフレット「2023年度入試から公立高校の入試制度（全日制）が変わります」発表	
2022	普通科再編　「学際融合学科」「地域探究学科」発足？	各校の「スクールポリシー」公表	理数科（瑞陵、岡崎北）
(R4)			理数コース（春日井）
			全日制単位制高（守山、幸田）
			企業連携コース（守山、幸田）
			旭陵通信制のサテライト施設（名西、小牧）
2023		公立高校　新入試開始	国際探究科（刈谷北）
(R5)		(特色選抜の新設など)	定時制キャリア教育モデル推進校・総合学科（城北つばさ昼）

コメント資料

愛知県 2023 年度からの「公立高校入試制度改変」についての愛教労の見解

2022 年 1 月 17 日　愛知県教職員労働組合協議会

愛知県では 2023 年度から公立高校の入試制度が大きく変更されます。現在の中学 2 年生以降の子どもたちに影響が及びます。中学校現場では、詳細について事前の周知がないまま決定のみが発表された感が強く、また教育課程に与える影響が非常に大きな変更であることから、県内の中学校では戸惑いと不安の声が高まっています。

私たち愛教労は、この入試制度改変の問題点について以下のように考えます。

1　早期選抜[推薦選抜・特色選抜]の導入　　～～「イイ子」選びの復活　～～

愛知県では複合選抜制度導入以降、25 年以上にわたって早期選抜[推薦選抜]が行われていました。推薦された一部の生徒が学力検査を受けず調査書と面接のみで選抜されるというものです。学力検査を受けず早い時期に進学先が決定するのはメリットが大きいので、生徒は推薦を得ようと見えない「競争」をすることになります。日常の学校生活や課外活動などで「推薦されるための言動」をとるようになったり、同じようにやっているのになぜ自分は推薦されないのかと不満を抱いたりするようになっていたのです。教員の側も「推薦」を無意識に「生徒指導の道具」として使うような事例もありました。推薦されるか否か、推薦するか否かで生徒と教師の間に溝をつくることにもなる仕組みでした。

また、2 月半ばに行われた推薦選抜の受験手続きから合格発表までの事務量は、教員の側にとって大きな負担でした。その後すぐに一般選抜の事務が続いたため、中3の担当教員は相当な時間外勤務を無報酬でやらざるを得なかったのです。

6 年前の入試制度改革でこれが変更され、受験生は推薦でも一般でも全員学力検査を受ける方式になりました。形式上推薦選抜は存続していましたが、メリットが少ないために多くの生徒にとって敢えて求めるものではなくなりました。生徒と教員の関係からみても教員の業務量からみても、早期に行われた「推薦選抜」の問題点をかなり解消するものでした。

2023 年度からの制度改変では、再び学力検査を課さない早期選抜が復活します。そこには推薦に加えて「特色選抜」が新設され、受験方式をより複雑なものにしています。中学校長の推薦を必要とせず高校の示す要件を備えていれば受験資格が得られるとされていますが、高校の教育課程を履修するのに必要な「特色」とは何なのか、説明を聞いても釈然としない仕組みです。学力検査なしの推薦選抜の復活で、中学校では再びかつてのような問題が起きるでしょう。そこに特色選抜も加わることで、中学 3 年生の進路選択は混迷し、教員の苦悩は増すことでしょう。

2 すべての入試日程前倒し　　～～　中3の3学期が壊される　～～

愛知県の中学校では 30 年以上にわたって高校入試制度に合わせて 2 学期末から 3 学期の行事日程が定着してきました。1 月末の私立高校・専修学校の推薦入試、2 月上旬の一般入試、この 6 年間でみれば 3 月初めに卒業式を終え、続いて公立高校入試が行われてきました。このスケジュールに基づいて、それらの合間にテストや保護者会、行事や会議などが設定されてきました。

今回の入試制度改変では、公立高校の受験日程が大きく前倒しされ、2 月上旬に早期選抜[推薦・特色]、2 月下旬に一般選抜が予定されています。これにより、私立高校・専修学校の入試日程も早まることになり、今のところ 1 月上旬に推薦選抜・特色選抜、1 月下旬に一般選抜が行われる予定となっています。

年明けに始業式が行われるとすぐに私立受験が来るため、従来この時期に行われていた 3 年生の学年末テストが行えなくなります。従来私立受験は 3 年生 2 学期の評定、公立受験は 3 年生学年末の評定をもとに受けることになっていましたが、3 学期に学年末テストがないので学年末の評定をこれまで通りに出すことができません。現在中学校で議論されているのは、3 年生1・2学期を総括した評定で私立・公立ともに受験するように変更せざるを得ないのではないかということです。また、3 年生だけがこの方式では無理なので、1・2 年生の評定も同時に変更すべきだろうという意見も出ています。公立入試日程の前倒しが、中1・中2の教育課程にも、そして修学旅行・体育祭や文化祭など学校行事の時期変更・縮小へと大きな影響を及ぼすことになります。

また、受験校決定の時期も前倒しせざるを得なくなります。これまで私立受験校は 12 月の保護者会で決定し、公立

資料1

受験校は学年末テスト後の評定をもとに1月末の保護者懇談で決定していました。早まった受験日程に合わせるためには、私立も公立も12月のうちに、1･2学期の評定をもとに決定せざるを得ません。そして、これまでは私立受験のための2学期の評定が下がってしまった生徒も、公立受験のために1月の学年末テストでもう一度よい結果をめざしてがんばるチャンスがありました。来年以降は、生徒にも保護者にとっても、これまでより早い時期での決断を迫られるとともに、2学期までの結果で受験校を決めなければならないことになります。

受験当事者である3年生の立場で考えると、年明けからの授業は受験の判定には無関係ということになります。教員の側としても、次々とやってくる受験日程の合間に、細切れのように授業を行わざるを得ません。これは、現行の方式でも同様で、受験に追われて落ち着いた授業ができなかったり、受験対策のような内容ばかりになったりする傾向があります。受験日程の前倒しによって、本来、義務教育最後の締めくくりの授業の期間であるはずの中3の3学期が、いっそう形なく破壊される懸念があります。

3 学力検査方式の変更　～～「深い学び」のゴールがマークシート？ ～～

これまでの入試制度では、Aグループ･Bグループの2回の学力検査を受けて2校受験する方式でした。今回の制度改変では、A･Bグループの2校受験を希望する場合も、学力検査は1回のみとし、マークシート方式の検査が導入されることになります。また従来全ての受験生に面接が課されていましたが、一般選抜で面接を課すか否かを各高校で決定できるとされました。短期間に2度の学力検査･面接を受けなければならなかった受験生の負担は明らかに軽減されます。学力検査の問題作成者、採点者の負担も大きく軽減されるとみられ、この改変については問題点が少ないとも言えます。しかし、採点の公平性を保つためのマークシート方式導入は、従来より差がつきにくいものになると考えられます。それを補うため特に学力上位層の受験生に差をつけるためには、問題の難易度が上がることも懸念されます。中学校では、受験に直接影響のない通常授業よりも、受験対策を徹底することが求められるようになるでしょう。3学期は出席日数も受験に影響しなくなるので、場合によっては、中学校は欠席して別の場所で受験勉強をするようなケースも現れるかもしれません。この意味でも中3の3学期が破壊されることになります。

また、現在の中学校の教育課程は「主体的･対話的で深い学び」を追求するものと位置づけられています。中学3年間の授業の中で、一問一答のような知識偏重の学びではなく、読み･書き･聞き合い話し合って学ぶよう工夫が重ねられています。入学選抜学力検査は中学校の学習内容の定着を測るべきものであり、マークシート方式はその方向と矛盾します。

受験者の合否の判定は、1回となった学力検査と調査書の評定点で行われますが、全受検者を対象に高校毎に決められる5種類の判定比率のいずれかが適用されます。これまで[学力検査:評定]は1:1、1:1.5、1.5:1の3種類でしたが、これが1:1、1:1.5、1.5:1、1:2、2:1の5種類となります。一発勝負の学力検査の比重が高い高校を目指す受験生は、より受験対策に向かうことになるでしょう。どの高校がどの比率を採用するかを公表するということは、序列を明示するのも同様です。県教委が言う「特色ある高校」とは、こうしたことも含まれているのでしょうか。

4 希望する全ての生徒の高校全入を！　～～ この入試制度で誰が幸せになるのか ～～

高等学校の教育は、特別な「特色ある生徒」のためのものではありません。希望する全ての生徒のために行われるべきものであり、その条件整備の責任は行政にあります。学力が高い、運動能力･芸術的能力に優れる、ユニークな視点を備える…という個性をもった生徒はもちろんのこと、全ての生徒が高校で学びそれぞれの能力･個性を伸ばす機会を得るべきです。

愛知県の計画進学率は、30年以上全国最下位と低迷してきました。1999年以前は89%台、2000年以降しばらくは93%、近年はやや下がって90～91%であり、全日制高校への進学希望があっても10人に1人はそれが叶わないように初めから設定されているのです。愛知県教委は従来の計画進学率を「進学見込率」という指標に置き換えましたが、そこに生徒の全日制高校への進学希望を反映させ、その実現に向けた条件整備を進めることが行政の責務です。

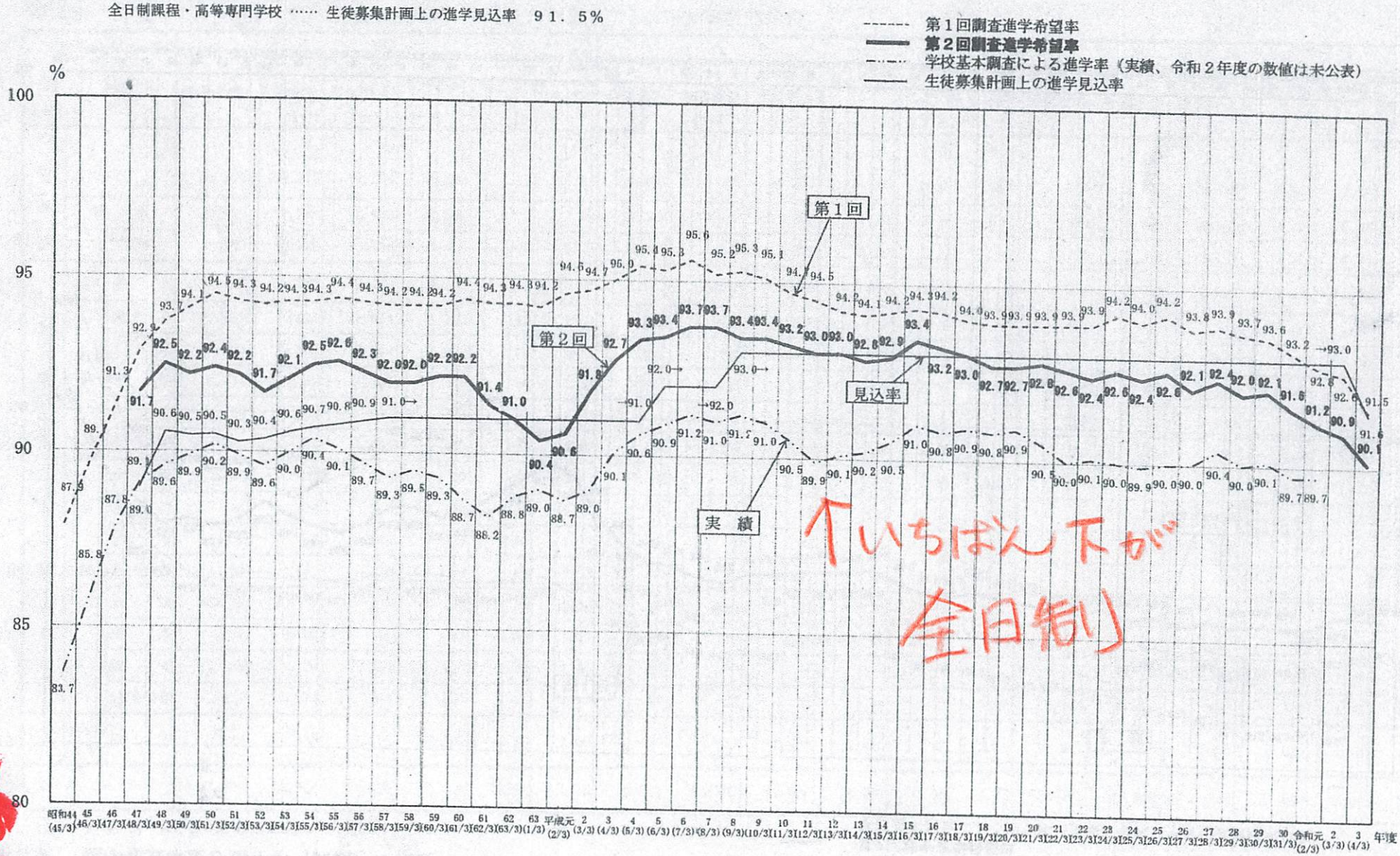
私たち愛教労は、2023年度の高校入試制度改変によって、今後多くの中学生、保護者、教員が悩み苦しむことに危惧を表明します。入試制度は大多数の県民の利益になる方向で改善されるべきであり、今回の改変の問題点の修正を求めるものです。

以　上

資料2

第２表　進学希望率及び進学率（実績）の推移

全日制課程・高等専門学校 …… 生徒募集計画上の進学見込率　９１．５％



区分	進路別卒業者数（2021年3月卒業）A 高等学校等進学者（就職進学者を含む）									B	C		D	E	F	G	計	高校進学率(%)				（再掲）
	高等学校（本科）			中等教育学校後期課程（本科）		高等学校（別科）	中等学校後期課程（別科）	高等専門学校	特別支援学校高等部		専修学校（高等課程）進学者	専修学校（一般課程）等入学者		就職者等	左記以外の			H	I	J	K	左記のうち他県への進学者（広域通信制進学者を
	全日制	定時制	通信制	全日制	定時制				本科	別科		専修学校（一般課程）	各種学校	公共職業能力開発施設等入学者	左記A～Dを除く	左記A～Eを除く	不詳・死亡の者	卒業者総数	全日制高校（A－1・4）	全日制（A－1・4）・定時制（A－2）高校	通信制（A－3）を除く高校等（A－1・2・4・5）	高校等（A－1・2・3・4・5）	
	A－1	A－2	A－3					A－4	A－5			C－1	C－2										
愛知県総計	59,998	1,170	4,251					245	708		311	4	39	8	160	521	3	67,418	89.36	91.09	92.14	98.45	3,505
%	89.00	1.74	6.31					0.36	1.05		0.46		0.06	0.01	0.24	0.77		100					
設置者別																							
公立																							
名古屋地区	14,444	232	1,048					41	232		83		10	3	35	131	1	16,257	89.10	90.53	91.95	98.40	816
尾張地区	23,043	447	1,589					77	231		132		10	5	68	198	2	25,802	89.61	91.34	92.23	98.39	1,330
尾張学区計	37,487	679	2,637					118	463		215		20	5	103	329	3	42,059	89.41	91.02	92.13	98.40	2,146
西三河地区	13,278	248	1,102					92	149		41	4	13	3	43	129		15,102	88.53	90.17	91.16	98.46	899
東三河地区	5,749	239	417					31	96		49		5		13	57		6,656	86.84	90.43	91.87	98.14	354
三河学区計	19,027	487	1,519					123	245		90	4	18	3	56	186		21,758	88.01	90.25	91.38	98.36	1,253
公立合計	56,514	1,166	4,156					241	708		305	4	38	8	159	515	3	63,817	88.93	90.76	91.87	98.38	3,399
国立																							
名大附属	80																	80	100.00	100.00	100.00	100.00	1
愛教大附属名古	153		1					2								2		158	98.10	98.10	98.10	98.73	11
愛教大附属岡崎	142							1										143	100.00	100.00	100.00	100.00	2
国立合計	375		1					3								2		381	99.21	99.21	99.21	99.48	14
私立																							
愛知	161		3												1			165	97.58	97.58	97.58	99.39	2
椙山女学園	204		2															206	99.03	99.03	99.03	100.00	3
愛工大附属	116		4													1		121	95.87	95.87	95.87	99.17	4
愛知淑徳	280		4								1							285	98.25	98.25	98.25	99.65	8
名経大市邨	37																	37	100.00	100.00	100.00	100.00	1
金城学院	322		1										1					324	99.38	99.38	99.38	99.69	2
東海	356		2															358	99.44	99.44	99.44	100.00	1
名古屋	263		1													1		265	99.25	99.25	99.25	99.62	1
星槎名古屋	31	3	55								3							92	33.70	36.96	36.96	96.74	46
南山	402		4															406	99.01	99.01	99.01	100.00	6
名古屋国際	69		3								1					1		74	93.24	93.24	93.24	97.30	3
名古屋女子大	60		4															64	93.75	93.75	93.75	100.00	4
名経大高蔵	38		1															39	97.44	97.44	97.44	100.00	
春日丘	120		1															121	99.17	99.17	99.17	100.00	
星城	20	1																21	95.24	100.00	100.00	100.00	1
聖霊	191		5								1							197	96.95	96.95	96.95	99.49	4
滝	258		2													1		261	98.85	98.85	98.85	99.62	2
大成	110		1															111	99.10	99.10	99.10	100.00	3
桜丘	71		1					1										73	98.63	98.63	98.63	100.00	1
私立計	3,109	4	94					1			6		1		1	4		3,220	96.58	96.71	96.71	99.63	92
名古屋地区																							
千種区	839	12	47					2	12		5		2			4		923	91.12	92.42	93.72	98.81	51
東区	333	1	28					2	5		2					6		377	88.86	89.12	90.45	97.88	23
北区計	967	23	70					2	15		7				7	6		1,097	88.33	90.43	91.80	98.18	51
西区	950	14	66					1	14		1		1		2	7		1,056	90.06	91.38	92.71	98.96	56
中村区	640	5	46					4	15		11				1	6		728	88.46	89.15	91.21	97.53	35
中区	216	5	20						5		2	1			2	8		259	83.40	85.33	87.26	94.98	9
昭和区	490	13	22						12		1		2			4		544	90.07	92.46	94.67	98.71	18
瑞穂区	616	9	44					5	7		1					3		685	90.66	91.97	92.99	99.42	31
熱田区	348	5	24					1	6		5					3		392	89.03	90.31	91.84	97.96	22
中川区	1,501	41	121					4	32		6		1		8	15		1,730	86.99	89.36	91.21	98.21	80
港区	1,059	42	92						13		6		1		7	18		1,238	85.54	88.93	89.98	97.42	60
南区	758	14	84					2	10		3				2	11		884	85.97	87.56	88.69	98.19	60
守山区	1,355	11	76					2	2		8		1		8	1		1,484	91.44	92.18	92.32	97.44	57
緑区	2,043	18	167					6	28		11		1		4	14		2,292	89.40	90.18	91.40	98.69	116
名東区	1,235	8	66					6	17		5				1	9		1,347	92.13	92.72	93.99	98.89	87
天白区	1,094	11	75					4	19		9				1	8		1,221	89.93	90.83	92.38	98.53	60
名古屋地区計	14,444	232	1,048					41	232		83		10	3	35	131	1	16,257	89.10	90.53	91.95	98.40	816
尾張地区																							
春日井市	2,507	22	138					6	30		10			1	4	21		2,739	91.75	92.55	93.65	98.69	119
豊明市	540	9	48					3	1		2				3	5		611	88.87	90.34	90.51	98.36	25
日進市	787	2	54					3	4		3					5		858	92.07	92.31	92.77	99.07	43
長久手市	545	4	21						2		4		5		1	5		587	92.84	93.53	93.87	97.44	17
東郷町	414	2	23						4		2					1		446	92.83	93.27	94.17	99.33	19
瀬戸市	1,000	11	70					1	13		4			1	4	11		1,115	89.78	90.76	91.93	98.21	41
尾張旭市	723	7	42					1	5		7			1	1	11		798	90.73	91.60	92.23	97.49	37
犬山市	610	12	40					3	6		4				2	7		684	89.62	91.37	92.25	98.10	49
江南市	787	19	50					5	7		4				2	2		876	90.41	92.58	93.38	99.09	53
小牧市	1,170	36	85					4	9		5		1		3	31	1	1,345	87.29	89.96	90.63	96.95	74
岩倉市	313	19	32						6		4		1			1		376	83.24	88.30	89.89	98.40	22
清須市	521	16	33						2		8				3	8		591	88.16	90.86	91.20	96.79	22
北名古屋市	701	19	52						2		6				1	3		784	89.41	91.84	92.09	98.72	38
大口町	193	3	14						2		1							213	90.61	92.02	92.96	99.53	14

愛知の高校進学率、進路先実数

資料4

資料２ 国通信制を除く高校等への進学率の推移

（文科省『学校基本調査』より）（%）

全国	1996年	2000年	2005年	2010年	2012年
平均	95.9	95.9	96.5	96.3	96.5
山形	97.3	97.1	98.2	98.6	98.8
岩手	97.2	97.2	98.3	98.3	98.8
石川	98.8	98.3	98.5	98.3	98.5
富山	98.7	98.6	98.2	98.1	98.5
島根	96.5	96.8	97.1	98.4	98.4
徳島	96.8	97.0	97.6	98.3	98.3
奈良	97.3	97.2	97.0	98.0	98.2
秋田	96.5	97.1	97.8	97.8	98.2
和歌山	96.8	97.3	97.8	97.9	98.0
大分	97.1	97.3	97.8	97.7	98.0
福井	97.0	97.3	97.6	98.3	98.0
新潟	96.8	97.4	98.3	97.7	97.9
熊本	96.2	96.9	97.6	97.8	97.9
宮城	96.5	96.9	97.6	97.5	97.9
長崎	96.9	96.5	97.1	97.7	97.8
鹿児島	96.6	96.4	97.0	97.5	97.6
滋賀	94.8	94.9	96.9	97.1	97.6
北海道	97.0	97.1	97.8	97.8	97.6
宮崎	96.4	95.2	96.6	97.0	97.4
長野	97.2	96.8	97.3	97.5	97.3
千葉	96.5	95.9	96.6	96.7	97.2
高知	94.4	94.5	96.6	97.1	97.1
鳥取	95.8	94.1	96.6	97.5	97.0
群馬	96.4	97.0	96.9	96.9	96.9
東京	96.2	96.4	96.7	96.8	96.9
京都	95.3	95.1	96.3	96.2	96.9
青森	96.8	96.7	97.2	97.2	96.9
山梨	98.1	97.4	97.9	97.4	96.8
佐賀	96.7	96.2	97.0	97.0	96.7
山口	97.4	96.9	96.9	96.6	96.7
愛媛	97.4	97.0	96.6	96.8	96.6
茨城	95.3	95.1	97.0	96.2	96.6
福岡	96.7	96.3	96.2	96.4	96.6
埼玉	96.0	96.6	96.9	96.2	96.5
岡山	97.3	96.6	96.7	96.3	96.3
福島	94.7	95.4	96.0	95.8	96.3
栃木	95.5	95.3	96.2	96.1	96.1
兵庫	95.5	96.1	96.2	96.0	96.1
広島	97.9	97.1	96.5	95.8	96.0
大阪	94.5	95.0	95.6	95.6	96.0
三重	96.3	95.4	96.1	96.2	95.9
香川	96.8	96.0	97.3	95.7	95.9
静岡	94.7	94.6	95.2	95.5	95.8
岐阜	96.0	94.6	95.4	94.8	95.4
沖縄	91.7	92.6	95.0	93.8	94.8
神奈川	94.1	95.0	95.0	94.2	94.4
愛知	92.6	92.1	93.1	93.1	93.1

＊2012年度の上位順に並べています。

＊＊1997年度以降，沖縄県より下となりました。

全国最低ライン

30年以上続けろ愛知

廃業者

1988年3月

11万6450人

2022年3月（見込み）

6万9664人

34年で

－4万6786人減

資料5

矛盾は通信制課程へ

愛知　全国

p. 71　更新

資料31　進路別卒業者数と割合（2021年5月，全国は2020年5月）

文科省『学校基本調査速報』等より算出

(%)

進路先	愛知県 人数（人）	愛知県 割合(%)	全国 割合(%)
高等学校等	66,372	98.4	98.8
高等学校	65,419	97.0	96.8
A全日制課程	59,998	89.0	92.5
B定時制課程	1,170	1.7	1.8
C通信制課程	4,251	6.3	3.0
D高等専門学校	245	0.4	0.9
E特別支援(盲・聾・養護)学校	708	1.1	1.1
F専修学校高等課程	311	0.5	0.2
専修学校一般課程	4	0.0	0.1
各種学校	39	0.1	0.0
公共職業訓練設等	8	0.0	0.0
就職	160	0.2	0.2
その他	521	0.8	0.6
死亡・不詳	3	0.0	0.0
総数	67,418	100.0	100.0

通信制

(%)

愛知県	進路先	全国平均
89.4	A高等学校全日制課程 D高等専門学校	92.9
92.1	B高等学校定時制課程 E盲・聾・養護学校高等部	95.8
98.4	C高等学校通信制課程	98.8
0.5	専修学校高等課程＊ 専修学校一般課程 各種学校	0.3
0.2	公共職業能力開発施設等 就職	0.2
0.8	その他 死亡・不詳	0.7

＊通信制高校と併せて入学（併修）していない場合。併修者はCに算入されている。

行きたくて行った通信制か？

資料6

運営委員会からのお知らせ

1．会報第 23 号です。これまでと同様に、第 23 回定例研究会の報告・コメント・質疑応答等を録音したものをできるだけ反訳（読みやすく整理）して掲載しました。ご意見・感想等を愛知労働問題研究会（aichiromonken@gmail.com）までお寄せください。

2．会員および会計状況

4 月 7 日現在の会員数は 35（31 個人、4 団体）です。会員名簿および会計（収支）状況は、愛知労働問題研究会の Google ドライブにある「会員名簿」および「会計」というフォルダに入れてあります（適宜更新します）。会員名簿または会計状況を閲覧したい会員は、当該フォルダの共有（共有アイテム）設定をすれば閲覧できますので、Google アカウントを作成したうえで、愛知労働問題研究会までアカウント（メールアドレス）をお知らせください。

以上